

教育委員会会議録

令和6年（2024年）第5回臨時教育委員会会議

開 会 日	令和6年（2024年）7月17日（水）	
開 会 時 間	午前9時00分 ～ 午後5時00分	
開 会 場 所	教育センター 4階 大研修室	
出 席 者	委員会	遠藤洋路 教育長 小屋松徹彦 委員 西山忠男 委員 澤栄美 委員 村田 慎 委員
	事務局	須佐美徹 教育次長 福田衣都子 学校教育部長 他
協 議	令和7年度（2025年度）使用中学校教科用図書の採択について （音楽（一般）・音楽（器楽合奏）・保健体育・技術・国語・英語・保健）	
署 名	村田 慎	
	遠 藤 洋 路	
会議録作成者	教育センター 村上公英	

令和6年（2024年）第5回臨時教育委員会会議【7月17日（水）】

〔開会の宣告〕 遠藤洋路 教育長 〔会議の成立〕 遠藤洋路 教育長	令和6年第5回臨時教育委員会会議を開会いたします。 本日は、私のほか4人が出席しているので、この会議は成立しております。 会議録署名人の指名を行います。会議録署名人は、会議規則第14条第2項の規定により、村田委員と遠藤とします。
日程第1 協議 ・協議1 令和7年（2025年度）使用中学校教科用図書採択について（音楽（一般）・音楽（器楽合奏）・保健体育・技術・国語・英語・道徳） 遠藤洋路 教育長 榎木敏之 副所長 伊藤友子 選定委員長 伊藤友子 選定委員長	苫野委員においては、今回の採択に関わる発行者の中学校教科用図書の編集委員をしておられます。それを受けて教育委員会会議で協議した結果、教科書採択における公正性・透明性を確保するため、苫野委員は、教科用図書の採択の協議及び議事に参加しないことを確認し、欠席しています。 それでは、協議1 令和7年度（2025年度）使用中学校教科用図書の採択について事務局より説明をお願いします。 協議1について説明します。令和7年度から中学校で使用する教科書全16種目の採択をお願いします。本日は、そのうちの「音楽（一般）」「音楽（器楽合奏）」「保健体育」「技術」「国語」「英語」「道徳」7種目についてご協議をお願いします。 まずは、熊本市教科用図書選定委員長から報告をさせていただきます。 まず、「音楽（一般）」の教科書の調査結果について、研究員記録員が説明いたします。 〈林秀一 研究記録員説明〉 次に教科書展示会の意見集約の結果報告を事務局が説明いたします。

《榎木敏之 副所長 説明》

伊藤友子 選定委員長

ただいまの報告について、事前に選定委員会にて調査報告を審議した結果、内容は妥当であると判断しました。

西山忠男 委員

大体ご説明のとおりだと感じました。ベートーヴェンの「運命」の頁を開いて比べますと、教育芸術社のほうは、第1楽章が2頁にわたって、楽譜が展開してあります。それに対して、教育出版のほうは1頁に小さくまとめられていて、まず、楽譜そのものが、教育芸術社のほうがはるかに見やすい。

遠藤洋路 教育長

西山委員、どちらの頁か教えていただいていいですか。

西山忠男 委員

教育芸術社の2・3上の付箋4、それから、教育出版は2・3上の付箋2。同じベートーヴェンの「運命」なんですけど、教育芸術社のほうは、第1楽章が2頁にわたって楽譜が展開してあって、非常に楽譜が見やすい。音符を触っていくぐらいしやすいんですよね。それに対して、教育出版のほうは1頁にまとめられているんですけど、楽譜が右側に偏っていて小さくなっている。見づらいですよ。第2楽章から第4楽章にかけては、どちらも1頁で書いてあるんですけど、やっぱり楽譜の見やすさという点で教育芸術社のほうが優れていますし、ご説明で第1楽章に特化した説明になっていたほうがいいんじゃないかというのはご説明のとおりだと思います。この1点がまず教育芸術社のよさと思いました。それからもう一つ、社会とのつながりというテーマが、教育芸術社のほうが付箋1、付箋8、付箋9という箇所はかなり詳しく説明されていて、これもなぜ音楽を学ぶかということを生徒に理解させるのに非常によい教材になっているというふうに思いました。私は、角野隼斗のファンなので、教育出版は捨て難いと思うんですけど、総合的に言うとやっぱり教育芸術社かなと思ったところです。

小屋松徹彦 委員

私は、両方の教科書の一番の特徴である二次元コードの数が、随分教育芸術社のほうが多いなという印象を受けました。

	その中で、それぞれをちょっと見させていただきましたけど、例えば教育出版のほうで、トライのところはずっと二次元コードが付いていますので、内容を確認しようと思いたところ、ほとんど教科書と同じようなシートが載っているケースが多いなという、印象としてありました。 二次元コードの使い道ですけど、大抵教科書に出ている頁と同じのがQRコードにも載っているというもので、これは実際授業のときにどういう使い方をするんだろうなと。かえってどちらかに統一したほうが生徒たちは迷わないかなと思いましたが、使い道がどうなっているのかを一つお聞きしたいというのと、もう一つ、教育芸術社のほうの二次元コードの数が多いという部分、これが非常に音楽領域は発声が大事な部分なので、動画とかたくさんあるのかなと思いましたが、そこら辺の二次元コードの内容について、少しお話をいただければと思います。
千田庸介 研究員代表	では、二次元コードコンテンツについてお知らせします。 やはり本市の子供たちはタブレットを持っていますので、二次元コードを読み取れば授業でもかなり使うことはできると思っています。今回、教芸さんのほうでは、歌唱教材が全曲、なおかつその中にカラオケピアノ、それとパート別の音源も入っています。それが今まで鑑賞CDとか、伴奏CDとか、あるいはパート別のCDで教師がワンセット持っていて、パートに分かれてやりなさいというふうな使い方をしていたんですけど、それがタブレットで自分で選べば学校でそのまま個人練習さえもできるようになるというような可能性があります。 それと、タブレットは家にも持って帰りますから、自宅で練習はほぼしないと思うんですけど、例えば仕上がりがありよくないねとか、あるいは先生の授業のやり方で、これ、ちょっと見ておいてねと。ひょっとすれば音を確認することが家庭での予習でできる可能性があると思います。それぐらい、二次元コードが充実していることによって対応できるのではないかなと思います。以上です。
澤栄美 委員	最初の説明のほうで、他領域とのつながりを意識していきたいということでしたけど、私の聞き落としでなければ、教

	育出版社のほうで、社会、それから英語とつながりがあるという説明があったんですけど、教育芸術社のほうでもそういったところはおっしゃっていましたかね。そういう他教科との関連のときに、他教科が進んでいる進度ってあるじゃないですか。そこどうまい具合に合わせるようなことができそうですか。
林秀一 研究員記録員	社会とか、例えば歌舞伎とか、江戸時代をしているときに一緒にやるとか、日本の民謡とかも社会の地理で日本地理をするときに一緒にやるとか、社会の先生に私も今どこをしていますとって、大体社会と同じように、この間習ったでしょうみたいなところで、社会と同じようなところにスポットを当てていくというやり方はよくされていると思います。
澤栄美 委員	ありがとうございます。もう一点が、著作権について、特に作品のほう。作るとか音楽とか美術作品とか、大変重要になってくると思うんですけど、何かそれぞれ教科書的には流れというか、指導の流れはちょっと違うかなと思ったんですけど、こういったところはどんなふうに扱っていらっしゃる。
千田庸介 研究員代表	著作権についてお答えします。教育芸術社のほうが、1年生の教科書で学びます。教育出版は2・3年生で学ぶように配列しています。学びの時期を考えると、今の時代、著作権に関して学ぶのは早いほうがいいのではないかなと思います。やっぱり1年生でしっかり著作権について守ってほしいというようなことを学んだ上で、学びを深めていくのがとてもいいことだと思います。
澤栄美 委員	私も早いほうがいいなと。子供たちが小学校に入る段階で、学校で使うタブレットとまた違って、自分のスマホなどで著作権に関わる行動をやっていることもあるので、そういう学びは大切だと思います。
村田慎 委員	先ほどベートーヴェンの曲での楽譜の見やすさというのが、西山委員からお話があったと思うんですけど、私、ヴィヴァルディの「春」の頁を拝見させていただいて、どちらも

	1年生で、教育芸術社が42頁、教育出版が44頁で、こちらの楽譜も若干教育芸術社が見やすいかなと自分も感じたんですけど、チェンバロ奏者の方のお話というのが載っていて、実際に演奏されている方のメッセージとか、どういうことをイメージするといいというのがあるので、イメージが膨らませやすいなというふうに感じました。 芸術の分野でどこに引かれたかとか、どこがポイントかというのは人それぞれあって、だからこそそれを人に伝えたり、自分の意見を話したりするというのにすごく抵抗を感じたりすると思うんですよね。ですので、先ほどの教育芸術社のプレゼン形式の頁のところを見ていて、そうした機会を教科書を使ってたくさん持ってもらって、自分の考え方、どこがよかったか、そういうのを人にどんどん話せる、自信を持てるようになってほしいな。そういうふうに教科書を使ってもらえたらいいなというふうに感じました。
遠藤洋路 教育長	ほかにいかがですか。じゃ、私からよろしいですか。教科書展示会の意見で、学校からの意見の中に、教育芸術社について、創作ツールのクオリティーが高く、記譜や楽器の演奏に課題がある生徒でも、創作活動に取り組みやすくなっているという意見があるんですけど、これについて説明していただけますか。
林秀一 研究員記録員	創作ツールについては、2・3上ですね。教育芸術社になりますが、2・3上の30頁、31頁ですね。マイメロディーというところがあるんですけど、これがもちろんワークシートを使いながらもできるんですけど、ドとかレとかファとか載っていますけど、何か音を出さないと実際分からないんですね、紙の上だけだったら。二次元コードがついていて、これを読み取ると、ここがぱっとツールが出てきまして、容易に音を鳴らすことができて、なおかつ試行錯誤できて、やっぱりこれじゃなかった、これじゃなかったと。実際音をイメージしながら創作ができるということで、この点は。そして、何回もやり直しができるという。紙の上だとやっぱり音が必要になってくるんですけど、これがデジタル化されているので優れているなというふうな意見であったと思われます。

遠藤洋路 教育長

分かりました。ありがとうございます。それと、先ほどの説明で確認したいことがあるんですけど、まず、教育出版の付箋の7番に、3年生の下の67頁なんですけど、ここに関してはもう一步踏み込んだ工夫があったらいいというふうな説明だったと思いますけど、それをもう少し具体的に言うところなのか、教えていただけますか。

千田庸介 研究員代表

この頁は、社会とつながる工夫がよくされているという点で申し上げまして、もう一つ踏み込んだらというのは、観点の1番を総合して、ベートーヴェンの「運命」とかそういったものを全部総合したところの丸をつけるところで、もっと踏み込んだ手立てが欲しいなというところで、この頁について言ったところではなくて。

遠藤洋路 教育長

なるほど。じゃ、その観点2の①の先ほどまでの説明で、ベートーヴェンとかも含めてされていない部分というか、不足している部分があるよという、そういう説明だということですね。分かりました。

あと、もう一点ですが、これも教育出版なんですけど、1年生の付箋8、63頁ですか。この説明のときに話し合おうというのがありますけど、何について話し合うか分からない、示されていないというようなお話がありました。

また、同じ教育出版の2・3年の上の付箋9、23頁ですね。これも同じようになりましたが、上を見ると吹き出しみたいところで、皆さんは演奏1と演奏8を聴いてどんな違いを感じましたかとか、その下の音楽を形作っている要素や雰囲気の変化などについて聴き取ったり、感じ取ったりしたことを話し合ってみましょうと、一応何について話し合うかは書いてあるんじゃないのかなと思ったんですけど、そこは話し合おうという欄の中に書いてないというふうにみなしているのでしょうか。

林秀一 研究員記録員

教育出版の1年生の63頁のところなんですけど、確かに今教育長がおっしゃったように、音楽を形づくっている要素、この下の吹き出しに、要素や雰囲気の変化などについて、聴き取ったり、感じたことを話し合ってみましょうと確かに書いて

	てあるんですけど、その音楽を形づくっている要素というのが左側なんです。この左側は、音楽を形づくっている要素が8つあるんです。構成とか音色とかリズム。8つを全部聴き取るのはかなり大人でも難しいことで、このうちの、じゃ、リズムを聴いてみましょうとか、強弱はどうだったかなという焦点化をしてやると、どうしても音楽は漠然と聴いてしまいがちなので、この中のどれを聴いてみると分かる、話合いがしやすくなるんじゃないかとか。こっちはリズムで聴いたけど、こっちは音色を聴いたとかなると、違った視点で見られるかもしれないですけど、話合いとなったときにリズムはこんなところの違いがあったとか、具体的な焦点化がされた方が話合いはしやすいんじゃないかという点で説明をしたところです。
遠藤洋路 教育長	分かりました。そこはどうなんですか。そこまで教科書に書いてあったほうがいいんですね。むしろリズムについて話し合いましょうと書いてあると、授業する側にとったら、いやいや、別のところについて話し合ってもいいんじゃないと思うこともあると思うんですけど、そのぐらいは教える人ができないんですか。書いてないと授業ができませんか。
千田庸介 研究員代表	熊本市内も若い先生方もたくさん採用していただいている、一生懸命力をつけられているところだと思うんですけど、そういう先生方もおられるというのを踏まえると、丁寧に教科書に書いてあることもとても大切だなというふうに思います。 すみません、せっかくですので、「浜辺の歌」で少しご説明をします。教育出版2・3の上の23頁です。先ほど遠藤教育長が言われたところです。アクティブ、旋律のまとまりというところです。そして、教育芸術社が、1年生の音楽1の26頁になります。「浜辺の歌」です。教育出版のほうは、旋律のまとまりと題して、浜辺の歌は二部形式となっています。これはA、A´、B、A´という二部形式、A、Bという二部形式でつくられています。それを歌って、話し合う。二部形式を意識して「浜辺の歌」を歌うとき、旋律のまとまりを生かしてどのように表現を工夫するか考えてみよう。ま

	た、考えたことを交流して歌ってみよう。旋律のまとまりを生かして、どのように表現するのかというところが視点として与えられています。 それに対して、教芸のほう、26頁、こっちは学びのコンパスで、自分たちの表現を工夫しましょう。1、演奏を聴いたり、歌詞を音読して、曲の印象や想像した情景などについて自由に話し合しましょう。対話的な学びを促しています。 2、歌ったり、伴奏を聴いたりしながら、音楽の特徴として聴き取ったことや感じ取ったこと、歌詞の内容などを表に書き、関わりがあるものと思うもの同士を線で結びましょう。そこには、拍子、旋律、強弱、形式など、音楽の見方、考え方であります諸要素が、具体的にヒントが書いてあります。 3、2で表に書いた内容について、ペア、グループで話し合い、自分の考えを広げたり、深めたりしましょう。ここでまた対話的な学びですね。このように、非常に丁寧にスモールステップでこうしてみましよう、これどうですか、ここはどうですかというふうに書いてあって、なおかつ右側までいって、さあ、今度はいよいよ表現に向けて話し合いながら、曲を組み立てていきましょうと。非常に丁寧な内容、組立てにしておられるところが非常にいいかなというふうに感じております。以上です。
遠藤洋路 教育長	分かりました。教育芸術社のほうが非常に細かく丁寧であるということは確かだというふうに思いますが、今の26、教育芸術社の頁でいうと1から7まで書いてありますけど、ほかの教科の説明でこれまでに結構あったパターンとしては、こんなにあったらできないので減点みたいな場合もあるんですけど、この場合はむしろたくさん細かくあったほうがより評価が高いという、そういうことでよろしいですか。全部できるということですか。
千田庸介 研究員代表	おそらくできると思います。
遠藤洋路 教育長	分かりました。全部できるのであれば問題はないと。全部やらなくてもいいんですよね。
千田庸介 研究員代表	そうですね。

遠藤洋路 教育長	分かりました。では、ほかにご意見、ご質問はありますか。よろしいですか。では、ほかになれば音楽(一般)については以上といたします。
伊藤友子 選定委員長	まず、「器楽合奏」の教科書の調査結果について、研究員記録員が説明いたします。 《林秀一 研究記録員説明》
伊藤友子 選定委員長	次に教科書展示会の意見集約の結果報告を事務局が説明いたします。 《榎木敏之 副所長 説明》
伊藤友子 選定委員長	ただいまの報告について、事前に選定委員会にて調査報告を審議した結果、内容は妥当であると判断しました。
西山忠男 委員	説明は分かったんですけど、私は器楽に関しては、教育出版もなかなかいいなと思います。どういうことかという、器楽を教える時間は短いです。8時間でしたっけ。ですから、器楽に関しては、ほとんど生徒が自分で楽しみでというか、趣味でやるケースも多いと思うんですよね。そういうときに、身近な楽器としてはギターとかピアノとかあると思うんですけど、コード表が教育芸術社だと、巻末の103頁にございます。教育出版ですと5頁にあります。教育芸術社のほうはギターのコード表しかないんですが、教育出版のほうはキーボードのほうのコードも一緒に示して、非常に教育出版は見やすくていいなという感じがするわけです。 ギターのところを見ても、教育出版は32頁から始まって、教育芸術社のほうは26頁から始まります。ギターの説明を見ても、教育出版はなかなかいいなという感じがして、例えば36頁にはコードを押さえよう、ストローク奏法が見開きで出て、似たようなのはもちろんあるんですけど、教育芸術社にもですね。写真を使って非常に分かりやすく示されている。例えばアポヤンドとアルアイレの奏法の違いは、教育出版のほうは30頁に写真で示されていますけ

	ど、教育芸術社のほうは32頁に絵で示されているだけで、ちょっと分からないですね、教育芸術社のほう、絵では。やっぱり教育出版写真のほうが非常に分かりやすいという感じがして。ギターは授業でしないから関係ないということかもしれませんが、そういう自分でギターやピアノをやる人のためにだったら、教育出版がいいかなというふうに感じたところです。
井出宏昭 研究員代表	ギターに関しては、教育芸術社は例えば33頁に二次元コードがありますよね。多分、実際に動画で見るということもできるようになっています。
西山忠男 委員	分かりました。ただ、やっぱりコード表は教育出版のほうが優れていると、前々から思っています。
小屋松徹彦 委員	私は感想になりますけど、まず、最初のリコーダーに入るまでの導入の部分、この作り方が、非常に教育芸術社のほうが丁寧に細かく作ってあるなというのが1点。それと、さっきのドラムスをやったのは誰かだとか、次は音楽って何だろうという、ここで子供たちの注目を引くというような、そういったこのつくりは面白いなと思って見ていました。教育芸術社の5頁の二次元コードを見ていると、確かにそれぞれの音楽の動画が出てきますので、これも優れているなというふうに思いました。戻ってみて、さっきの3頁の1回戻りましたところ、これは許可されていませんという、再生が許可されていないということで出てこなかったんですけど、ちょっとこれはがっかりなので、こういうところはもう少し二次元コードの作り込みというか、確認はしていただきたいなというふうに思いました。そこが教育出版に比べると非常に生徒たちが入り込みやすいなと、共有しやすいなと、そういうつくりになっているなと思いました。感想です。以上です。
遠藤洋路 教育長	再生できない二次元コードがあるという、これはどういう意味なんですか。
井出宏昭 研究員代表	すみません、そこまで細かく確認できておりませんが、推測ですが、二次元コードが載るということはぜひ子供たちに

遠藤洋路 教育長

見せたいと、すばらしい演奏だということは前提であると思います。ただ著作権とか、映像の権利の手続の関係で間に合っているのか、間に合っていないのかということは一つ考えられるということではあります。

分かりました。実際、授業で使う時期になったら見られるという前提ということでよろしいですか。分かりました。

小屋松徹彦 委員

これは非常に大事な部分だろうと思います。特に一番最初のこれを見たときに、このイシカワショウさんってどういう方だろう。やっぱり動画を見たいなとか、二次元コード見たいなとなりますので、ここはぜひ何か教科書ができたときにはちゃんと見られるようにしておいてほしいなと思いました。

村田慎 委員

まずは感想なんですけど、教育出版さんの10頁のところにゲーム音楽がちょっとだけ紹介されているんですね。ファイナルファンタジーが紹介されているんですけど、ゲームそのものももちろんですけど、ゲーム音楽って今すごく日本だけじゃなくて、世界でも人気があって、誇れる部分だと思うので、そのところがちょっとですけど扱われているところは生徒さんたちにもとても親しみが持てるんじゃないかなというふうに感じました。

1つお尋ねなんですけど、観点8のところの人権教育についてなんですけど、学校からの意見で、教育出版は人権などに細かな配慮がされていると書いてあったのを拝見したんですけど、具体的にどういったところのことなのかというのと、一方で、教育芸術社さんのほうがどうだったかという、その違いというのを聞かせていただければと思います。

井出宏昭 研究員代表

世界中の多様な民族性だったりとか、文化を丁寧に音つきで、弦楽器のルーツであったりとか、民族の文化等を理解するコンテンツの度合いといいますか、教材の深みといいますか、そのような部分であったと記憶しております。より多くの多様な、グローバルな観点でという意味であったかと思います。

澤栄美 委員

どちらも何か同じような工夫されているのかなと思って見ていましたけど、教育芸術社のほうで、68頁にバンドの世界をのぞいてみようというパートで、一番最初の頁にさっき話題になっていたイシワカさんというドラマーの人のことが載っています。伝統文化というところではあるんですけど、子供たちの今の興味、いわゆる学校でお勉強する音楽がこういうところにもつながっているというところで、こういったバンドのことが掲載されているというのは、子供たちに同じ音楽なんだと。バンドはバンドで違うということではなく、そういった気持ちを持たせるのにはすごくいいかなという感じがいたしました。以上です。

遠藤洋路 教育長

ありがとうございます。ほかにいかがですか。じゃ、私から。事務局に確認なんですけど、教科書展示会での意見、器楽についてはありませんでしたということでしたけど、先ほど村田委員からもありましたように、私たちがもらっている資料では、学校からの意見があったみたいで、全体的には教育出版の意見、教育芸術社の意見があるんですね。先ほどの音楽（一般）のほうも、例えば教育芸術社の意見として2件として書いてある。私たちが頂いているのは意見10件と載っているんですけど、何か資料が違うんでしょうか。

榎木敏之 副所長

すみません、前の資料になっていたようですね。ちょっと確認します。すみません。

遠藤洋路 教育長

前の資料とは、バージョンが違うということですか。

榎木敏之 副所長

すみません、失礼しました。選定委員会の途中で、教科書展示会がまだ途中の段階で出展したところで、器楽のところで報告したときにはまだ0件だったということで、その後、更新ができていませんでした。失礼しました。

遠藤洋路 教育長

分かりました。じゃ、私たちがもらっているほうが、意見が出ていたり、意見の数が多かったりするということは、私たちがもらっているこれのほうが新しいものという、そういう理解でよろしいですか。

令和6年（2024年）第5回臨時教育委員会会議【7月17日（水）】

榎木敏之 副所長	選定委員会の後に入ってきた資料が、最終的な、全部まとめたやつが最新版になります。
遠藤洋路 教育長	分かりました。それでしたら、先ほどの音楽一般と今回の器楽合奏もそうですけど、一応新しい資料にして、もう一度説明を後で。
榎木敏之 副所長	失礼しました。新しい内容でご報告したいと思います。
遠藤洋路 教育長	分かりました。あと、これは研究員のほうに質問なんですけど、音楽一般と器楽・合奏は同じ出版社のほうがいいのか、別々でも別に構わないのか、そこについてはいかがですか。
井出宏昭 研究員代表	これにつきましては、前回もこのような形のお話をする機会があったかと思います。前々回が、器楽が教育芸術社、そして一般のほう教育出版という形で扱った時期がございました。指導要領を基にして作ってある教科書ですので、ねらうところというのは同じではあるのですが、やはり学習の進め方、考え方、スタイルですね、そういうものがやはりねじれてくると非常に難しい部分があったということで、前回のお話で統一して、やっぱり一つの教科書。1社で同じ学び方ができるという、そこに安心・安全が生まれるのかなということもありまして、研究員のほうでは器楽、そして一般のほうも統一した1社の1種類というところがふさわしいのではないかという話になりました。
遠藤洋路 教育長	ありがとうございました。安心・安全というのはやや抽象的なんですよね。もう少し授業で使うときに、具体的に同じほうがこんなふうがいいとか、違うとこうなるとか、何かそういうことがあれば教えていただけますか。
井出宏昭 研究員代表	すみません、安全というのはちょっと安直でしたけど、学びのコンパスというのが教育芸術社にはございますけど、学び方ですね。音楽を学ぶ上でやり方とか、学び方とかいうことが非常に結果に影響してまいります。どのような手順でその音楽を高めていくか、深めていくかというときに、どこに

	視点を当ててどのように協働し、そして外に意見を出しながらという、伝えるというのは非常に大事なものですので、その学びのコンパスという部分ではよく示されている部分ではありますので、そこをしっかりと統一させたい、そういうのはあります。
遠藤洋路 教育長	分かりました。ほかに委員の方からご意見はありますか。では、ほかになければ、音楽の器楽合奏については以上いたします。
伊藤友子 選定委員長	まず、「保健体育」の教科書の調査結果について、研究員記録員が説明いたします。
	《村上公英 研究記録員 説明》
伊藤友子 選定委員長	次に教科書展示会の意見集約の結果報告を事務局が説明いたします。
	《榎木敏之 副所長 説明》
伊藤友子 選定委員長	ただいまの報告について、事前に選定委員会にて調査報告を審議した結果、内容は妥当であると判断しました。
遠藤洋路 教育長	一つ確認ですけど、選定委員長からは、教科書展示会の意見集約の結果報告と言っているんですけど、今の報告だと、展示会の意見と学校の意見と生徒の意見というふうに説明があったんですけど、全て展示会の意見ではないんでしょうか。
榎木敏之 副所長	失礼します。一般と学校からの意見が展示会の意見になります。生徒からの意見は、展示会ではないんですけど、展示会に準じた形で熊本市が独自に工夫した意見収集の方法ということで、教科書を実際に校内に、1つの学校だけなんですけど、抽出した学校から生徒の意見を収集したということになっています。
遠藤洋路 教育長	学校の意見というのはあったんですか。

榎木敏之 副所長	学校の意見は教職員の意見です。展示会のほうで教科書を見て、学校教職員だけは学校を通じて意見を出してもらうような方式にしましたので、一般とは一緒に交ざらないような形で、回答方法が違います。学校、教職員だけの意見ということで学校からの意見としています。
遠藤洋路 教育長	それは展示会での意見なんですか。
榎木敏之 副所長	そうです。展示会での意見です。一般からというのと、学校からというのはどちらも展示会からの意見です。
遠藤洋路 教育長	つまり展示会で一般の人の意見と教職員の意見でいいんですね。
榎木敏之 副所長	はい、それを分けて整理しているということになります。
遠藤洋路 教育長	展示会と学校という2会場があるわけなので、展示会で一般の方と教職員の意見という、そういう。答えている人で分けているということによろしいんですか。
榎木敏之 副所長	はい、すみません、ちょっと表現が悪くて。ここで展示会というのは、一般の方の意見です。そこにはもしかすると小・中学生も入っているかもしれないんですけど、明確な、誰が書いたというのは分かりませんので、一応市民からの意見ということで、それを展示会からの意見というような枠組みで表現して、ちょっと分かりにくい表現になってしまいましたけど。
遠藤洋路 教育長	分かりました。音楽のときは、一般の意見と学校の意見と生徒の意見と言っていたんですけど、今回は展示会の意見と学校の意見と生徒の意見なので、何が違うのかなと思ったんですけど。
榎木敏之 副所長	すみません、展示会の意見というのが一般の意見ということで表現したところです。今後、一般の意見というような表現で報告したいと思います。

遠藤洋路 教育長

分かりました。音楽と一緒になんですね、じゃ。

榎木敏之 副所長

はい、同じになります。

西山忠男 委員

報告いただいた意見の中にもあったんですけど、紙面の見やすさという点からいいますと、大日本図書が非常に優れているんですよね。例えば、一番最初にご報告いただいた付箋1の頁、休養、睡眠と健康なんですけど、左側に文章があって、右側に資料がきれいに並んでいるというつくりになっています。これは全部、次の頁もそうですし、基本的にこういうつくりになっていて、とても見やすいですね。

これに対して、東京書籍は見にくいんです。同じ付箋の1なんですけど、左側の頁の上のほうに資料1があって、次、その横に見つけるというのがあって、関係しているのでしょうかという問題提起があって、その下に学習課題があって、本文があって、また資料2が入っている。右側にもいろいろごちゃごちゃなっていて、どこをどう見ていったらスムーズに勉強できるかというのが、東京書籍は非常につくりが悪いというのが私の印象です。

大修館と学研は割と見やすいんですけど、ところどころ、学研ですと感染症の頁、付箋3のところがちょっと見やすいなという感じもしました。それが第1点目です。

第2点目に、性の多様性についての取扱いなんですけど、これは大修館が非常に優れていると思いました。大修館の42頁、43頁です。この2頁にわたって、性についての固定的な考え方に気づこうというテーマで、人間の性は幾つあるかというようなことや、性的マイノリティーの人たちが抱える不安や悩みというような説明があって、そして制服のことが述べられていて、熊本市は制服の標準化ということを進めて、自由選択ということになりますから、そういう現代の流れに非常によく合っていると思います。

これに対して、東京書籍の例で説明しますと、性の多様性は51頁です。体の性、心の性、好きになる性、社会的な性、4つありますよということが書かれているだけで、これは大修館でいうと42頁の左側の頁のことだけになっていますね。ですから、性の多様性については大修館が非常に詳し

澤栄美 委員

い。

それから、もう一つ、大修館のいいところは5頁、6頁。共に生きるというテーマがあるんですが、口絵の5頁、6頁で共生社会をつくるためにということで、みんな違っていいという、性同一性障害のはるな愛さんの話が出てきて、それを深掘りしたのが69頁。ちょっと頁数がメモと違いました。LGBTQの話が出てきているところがあったんですが、ちょっと頁が分からなくなりましたけど。ダウン症の方のお話と一緒に。59頁です、ごめんなさい。

59頁を見ていただくと、ストレスと心の健康というタイトルで、はるな愛さんのメッセージがあります。こういうところが非常に大修館は優れているなと思います。ですから、〇の数はちょっと少ないですけど、東書より私は大修館を勧めたいと思っていました。

事前の学習会のときにも少し気になっていたんですけど、保健の評価の関係という、知識・技能が全体的になくて、けがの防止のところと、それからリラクセーションのところの心の関連のところだけに技能に入っているのを、大修館書店がまとめのところで全て知識・技能というふうに書いてあるのがちょっと引かかる感じが一つあったということは申し添えておきたいと思います。

1つ目は、感染症の予防のところなんですけど、私が自分として割とずっとこだわってきているところで、大修館書店は145頁に、せきエチケットのところが結構大きく載っているんですよね。多くの人がマスクはうつらないためにするというふうに誤解をしているところ、ここはきちんと扱ってあるところは大修館しかなかったので、そのところは工夫されているところだなと思いました。

それで、幾つかの紹介であった学習の振り返りのところなんですけど、私は、ほとんどの子供が高校に進みますけど、高校でまた学んでいくところ、小学校からずっと系統的に考えてあって、流れとしてあって、また高校で学ぶところもあると思うんですが、3年生で学ぶ保健・医療機関の利用というところが私は非常に重要だと思っているんですね。今後、子供たちが社会に出たときに、これは社会の教科でも言えると思うんですけど、自分たちが社会にある福祉とかそう

	いったものを活用していくスキルというのも重要だなと思ったときに、東京書籍では付箋4のところですね。157頁で本人と社会ができる体制とか3つに分けた、3つ説明文が出了たけど、大日本図書にもそういった箇所がある。自分が病気に加かったとき、あるいは周りがそういうときにどうしたらいいんだという、まさに自分の生活に生かしていくという意味では、こういったところがあるというので非常にいいかなと思いました。 先ほど説明のあった東京書籍ですね。スキルというのが、いわゆる評価する技能だけではなかったんですけど、スキルがまとめて載っているというところは、子供たちが何を身につけるかの焦点なので、あるというところではいいのかなというふうに。
西山忠男 委員	巻末のスキルですか。
澤栄美 委員	そうです。 それぞれの教科書で章のまとめのところ辺りには工夫がありますけど、そういうところをちょっと私は中心的に見させていただきました。以上です。
村田慎 委員	付箋の1のところの成長ホルモンのグラフを円を見てみると、どこもちゃんと睡眠は何時間ぐらいのときにこうと数字がちゃんと書いてあるんですけど、東京書籍だけ数字が書いていないので、やっぱりここは数字は書いてあるほうが分かりやすいかなというふうに思ったのと、説明の中にもありましたけど、睡眠が十分に取れていないと感じている人のグラフのところに教科書を使っている生徒さんの年代がグラフに入っていないというのは、やっぱりそこは入ってほしいかなというふうに思ったんですけど。 先ほど西山委員からございました性的マイノリティーについての記載の部分の中でも、SNSトラブルのところが各社書かれてはいるんですけど、自撮りの写真を送ってしまったとか、そういうときにどう対処しますかというような、それぞれの、大日本図書だけちょっと見つけれなかったんですけど。一応活用するとかそういうところで例えが出ているんですけど、大修館の例が一番具体的で、いきなり写真を送って

	しまってトラブルに遭わないようにと訴えるんじゃないくて、最初、身近に相談を聞いてもらってとか、信頼してという、自分の心に付け込まれているところからの例が書いてあって、そこはすごく身近に受け取りやすいかなと思ったので、大修館はとても丁寧だなと思いました。感想です。 大修館の中では、朝、布団から出るのがつらいと覚えることがよくある中学生の割合というグラフがあって、こちらは身近に感じられていいのかなというふうに思いました。
遠藤洋路 教育長	村田委員、今、最初におっしゃった数字が書いてないというのは、すみません、どういうことでしょう。
村田慎 委員	東京書籍の付箋2の眠りのサイクルのグラフが先ほど説明をいただいた中でもあったんですけど、就寝、覚醒までの数字が書かれていなくて、ほかの教科書では数字が書いてあったというところのことでした。
遠藤洋路 教育長	このグラフで時間と書いてあるわけですね。分かりました。
小屋松徹彦 委員	私は授業の進め方、やりやすいのはどれかなというふうに見ていたんですけど、東京書籍のほうが見つける学習課題、そして課題の解決、広げるという、そういう流れをつくってあったのが重要、実践しやすいのかなと思いました。 学研のほうも、課題などの件、それから学習の課題、課題の解決、そして広げるというような、こちらのほうも同様に授業を進める上でやりやすいのかなというふうに思いました。 それから、あとは対話的なテーマはどうなんだろうなというふうに見てみましたが、学研が一番対話的な分での場面は多かったのかなというふうに見ていまして、特に3年生になってからは対話の面が少し1、2年よりも多いんじゃないかなという、私は印象を受けました。 それから、東京書籍のほう、活用するですか。話合いの場面をつくってあって、学研のほうでは協働という形で話合いの場をつくって、そこを中心に見ましたが、学研が少し対話的な部分ではいいかなというふうに思いました。以上です。

遠藤洋路 教育長

ありがとうございます。

私から。私も感想的なことなんですけど、東京書籍は先ほどから説明がありましたように、データが非常に詳しく睡眠なんかでも載っているなというふうな印象はあるんですが、教科書展示会の意見を見ると、多くが今使っている教科書だというご指摘、意見が出て、東京書籍の一番優れている特徴は今使っている教科書だという、それってどうなのかなという。それ以外のところの取り得って何なんだろうというところが少しは出ているんですけど、あまり教科書自体についてはいいのか、どうなのかというところはありません。

展示会では、大日本が見やすいというところは、教職員の意見も、子供の意見も見やすい、分かりやすいということですね。左頁が文章で、右頁が資料になっているという、そのレイアウトは非常に評価されているんだなと思いましたし、実際、先ほど西山委員からもありましたけど、見やすいなと私も思います。ただ、中身が東京書籍と比べるとデータのものは少ないので、少し物足りないというのは率直な感想です。

大修館と学研、それぞれいいところはあるなと思いましたけど、私は学研が個人的には見やすいなというふうに思ったところです。

1点質問なんですけど、感染症のところで、今、感染症といたらインフルエンザもありますけど、やっぱりコロナというのが一番大きな課題であったわけで、何か新型コロナについて、各社ともあまり書いていないなというふうに思うんですけど、これは何か理由があるんですか。文科省から書きゃ駄目だと言われているとか、教科書検定で削られているとか、何かそういうことがあるんでしょうか。

清藤誠也 研究員代表

失礼いたします。私も教科書を見ながら、コロナという明記がなかったのも、すみません、そこはどうしてなのかということについては、確認はしておりません。申し訳ございません。

遠藤洋路 教育長

やっぱり子供たちも一番関心があるのはコロナだと思うんですよ、圧倒的に。各社どのぐらいコロナについて、全く

	書いてないわけじゃない。多少触れている。名前ぐらいは出てくるんですよね。だから、別に書かないようにしているということじゃないんでしょうけど、確実に分かっていることが少ないから書いていないのかもしれませんが、その中でいうと、学研が一番コロナについて、緊急事態宣言なんかも新聞の記事とかも載っていて、ある程度、4社比較すると取り上げているのかなというふうに思ったところです。やっぱり緊急事態宣言ということを書くなら100年前のセントルイスの緊急事態宣言じゃなくて、やっぱりコロナだと思うので、そこは最近のことを取り上げている学研のほうが東京書籍よりもいいのかなというふうに思ったところです。
澤栄美 委員	1つ言い忘れていたんですけど、東京書籍以外は章のまとめというのがあって、東京書籍には章のまとめは小さくはありますけど、学習の。ほかの教科書は半頁だったり、1頁だったら1頁あるんですけど、大事な部分をまとめてあるというのは大事なかなという。知識としてですね。ないと、自分たちの行動も取れないかもしれない。そういった点では東京書籍がいいのかなというふうに思います。ほかの出版社も少しはあると思うんですけど。以上です。
清藤誠也 研究員代表	教科書のほうには東京書籍のほうはなかったみたいですけど、デジタルコンテンツのほうにはあるかなというふうには思っています。
澤栄美 委員	それは、先生方で授業するときに大事に、デジタルツールとしてやっていかれるものと考えていいですか。
清藤誠也 研究員代表	まとめのときにもいろいろお話をしましたが、二次元コードを使っている、使っていないというところに関しましては、先生方次第で様々なところがありまして、ベテランの先生方にとっては今まで蓄積してきた自作の教材みたいなものも作り上げている方もおられるようですから、たくさん有効なものがありますので、そういったものにつきましてはどんどん使っていったほうがいいのかなというふうには思っているところではございます。

澤栄美 委員	そのまとめは、ほかの教科書会社にあるような感じのデジタルのまとめですか。どんな感じですか。
清藤誠也 研究員代表	同じようなものがデジタルのほうでございました。確認しております。
澤栄美 委員	分かりました。ありがとうございます。
小屋松徹彦 委員	表の中の観点4の勤労観、職業観が東京書籍だけが◎であります、ここのよかった点、ほかとの比較でなっていますけど。
清藤誠也 研究員代表	勤労観、職業観につきましては、4社それぞれ違ったアプローチをされておりまして、体育、スポーツに関わる様々な職業が紹介されております。中でも、特に東京書籍につきましては、各章の扉に関連する職業の紹介がされておりまして、二次元コードからも詳細な情報を見ることができます。多くの職業に注目することができるようによく工夫がされているということで、東京書籍のほうを◎というふうにしております。他の会社のほうも工夫はされておりますけど、量的なものが非常に多かったというところで評価をしました。
小屋松徹彦 委員	章の初め、これのことですね。
村上公英 研究記録員	私の方からいいでしょうか。
清藤誠也 研究員代表	詳細な説明がございますので。
村上公英 研究記録員	では、プレゼンとは違う資料を提示させていただきます。まず、どのような職業が取り上げられているかというところで調べました。ご覧のような頁に表記されているような職業例が出てきております。数でいうと、今挙げているものは東京書籍と学研が多く出てきております。 ただ、学研のほうを見ますと、各頁の右下にジョブマークというマークがありまして、57時間分の57種の職業が取り上げられていました。数でいうとこれだけです、57種です。ただ、この職業については名称だけ取り上げられていま

すので、研究員の先生方にお尋ねしたところ、取り上げる分としては、授業ではちょっと難しいかもしれないというふうな意見はございました。

詳しく教科書ごとに見てみますと、これは東京書籍です。職業のクローズアップの様子なんですけど、各章の扉に載っております。初めは、健康な生活と疾病の予防という関連です。ここで、ここでは大学教員で管理栄養士のウチノさんの仕事の内容が詳しく書かれております。横に二次元コードがありまして、それを読んでみますと、このような画面で下にスクロールしていくようなものが出ます。生まれた年、出身、中学校のクラブ活動、出身高校や大学、現在の所属や手がけているプロジェクト、仕事のうれしい瞬間、中学生へのアドバイスなどの情報が出てきます。これはこういうふうにクローズアップされておりました、これが章ごとにこれだけの数、詳細な情報を見ることができました。有名な方はおられませんでした。その分、職業自体に注目できるのではという意見でした。

体育理論の頁にも、多様なスポーツの楽しみ方という頁のところで出ておりました、漫画家の高橋陽一さんはじめ、4人の方の私とスポーツのコラムが掲載されています。まとめという、喜びや苦悩、努力の大切さが分かるような資料が載っておりました。

大日本は、巻頭の見開きに陸上の桐生さん、重本さん、サッカーの澤さん、研究者のオオスミさんがクローズアップされております。毎日忙しい中で健康に過ごすために気をつけていること、中学生へのメッセージが掲載されています。また、大谷翔平さんの夢を叶えるためにというコラムが載っており、目標を立てる大切さというところが分かりました。というふうに、大日本の場合は5人の著名人の健康に関する資料が載っております。

大修館については、コラムでホーキング博士の人生と、制服デザイナーに聞く性の多様性、フジイさんの自己形成について、関連する学習に掲載されています。体育の窓というところがありまして、サッカー選手と食事について、それと事例で、元サッカー選手が車椅子バスケットボールと出会ったこと、保健師の先生の仕事について紹介しています。

大修館は、それぞれの学習に関連した形で職業と併せて掲載

	してあります。 学研については、巻頭に保健師、環境計量士、救急救命士、理学療法士が関わり合って生きるというテーマで私たちとどのように関わっているかが掲載されており、人・物・事でサッカー女子審判員のヤマシタさんのサッカーとの出会い、3人の偉人の業績も併せて載っております。医療ソーシャルワーカーのトウガさんのインタビューが詳しく載っておりました。学研も、学習に関連した形で偉人を掲載している点が特徴だというような意見でした。 まとめまして、東京書籍が職業をクローズアップして詳しく分かるというようなところで、東京書籍のほうを◎というふうにしています。
小屋松徹彦 委員	先ほど学研さんの説明の中で、いろいろな職業がいっぱい出てきているという一覧がありました。あれは二次元コードで見ていると、そういう職業の名前が出てくるという。
村上公英 研究記録員	教科書を開いて見ていただけると分かると思いますが、学研の教科書は学習する頁。
遠藤洋路 教育長	左下のところに書いてある。
村上公英 研究記録員	失礼しました。さっき右下と申しました。左下にジョブマークがありまして、左下の全ての頁に職業名が書いております。ただ、職業名だけということにはなっています。二次元コード等はございませんでした。
小屋松徹彦 委員	せっかくだったら、これを使うのは少し多いかな。文章などあったほうがいいなと思いますね、せっかくならですね。
遠藤洋路 教育長	学研の職業と名前だけ書いてあるのは、どういうふうに使ってほしいということで書かれているんですか。
村上公英 研究記録員	保健の教科書は体育理論が各学年3時間で9時間、それと保健の学習が48時間、合計57時間になりますので、その57の時間のそれぞれに関連するであろう職業名というところで出されていますので、この時間と関連する職業というところ

遠藤洋路 教育長	ころで職業名だけ出されているのかなというところで考えたところでは。 じゃ、授業でどうやって使うかと、それはあまり予定されてないのかもしれないということでしょうね。分かりました。 ほかにご発言はありますか。よろしいですか。 では、ほかにご発言がないようでしたら、「保健体育」は以上といたします。
伊藤友子 選定委員長	まず、「技術・家庭科（技術分野）」の教科書の調査結果について、研究員記録員が説明いたします。
	《三浦寿史 研究記録員 説明》
伊藤友子 選定委員長	次に教科書展示会の意見集約の結果報告を事務局が説明いたします。
	《榎木敏之 副所長 説明》
伊藤友子 選定委員長	ただいまの報告について、事前に選定委員会にて調査報告を審議した結果、内容は妥当であると判断しました。
西山忠男 委員	ご説明いただいたんですけど、3社それほどの差はないのかなという気がしたというのが一番の感想なんですけど。 例えば東京書籍の19頁でご説明いただきました最適化の窓ですね。これはLED ランプなんですか。これを見て、技術面から考えた社会からの要求、安全性、環境への負荷、経済性、いろんなことを考えなきゃいけないよというのは分かるんですけど、いちいち聞いてあることに生徒が答えられるかというと答えられないし、考えるすべもないんじゃないか。例えば生命倫理はと聞いてあるけど、えっ、電球で生命倫理とか。情報倫理はと。電球で情報倫理って何というふうに思うと思うんですね。ですから、ここは評価が高かったんですけど、私としてはそんなに役に立つとは思えなかったというのが率直な感想です。 それから、251頁からのプログラミングの整備システム

水田貴光 研究員代表

の話ですけど、これはほかの教科書もそうなんですけど、プログラム自体が見えないですよね、緑と茶色の背景が濃くて。251頁のプログラムを書いているところですよ。これは開隆堂もそうなんですけど、ちょっとこんなの載せられてもどうしようもないなという感じがしますよね。

そういうわけで、東京書籍が一番評価は高かったんですけど、私としてはそんなに変わらないんじゃないかなと思って、お尋ねしたいのは、教育図書の別冊の評価はどうかだったのかということです。

それと、もう一つ、開隆堂のいいと思っているプログラミングのところがほかの、確かにさっき言いましたように、東京書籍と同じで色が濃過ぎて見づらいのは見づらいんですけど、プログラミングのところ、例えば254頁からの流れは非常に他社よりは分かりやすくいいんじゃないかなと思ったんですね。

ですから、教育図書にも開隆堂にも、評価すべき点があると思いました。その2点、どう評価されるか教えてください。

失礼します。

教育図書の別冊に関してですが、丁寧に技能スキルを眺めるためには効果的なものであるというのはもちろんいいと思うんですけど、そこまでこれを使うまでは授業中はないだろう。また、3年間も使う教科書でありますので、途中なくなった場合のその後の、また別に購入しなければならないとか、そういう点でちょっと心配な面があるというのは研究員の中の意見です。

その次に、開隆堂のプログラミングのほうに関しましては、委員のほうからお話のとおり、とてもこちらが詳しく見やすいという点は研究員のほうからもありました。

ただ、開隆堂に関しては、ストレート型というか、問題解決的なつくりではなくて、何か学習が道しるべに沿っていくようなスタイルになっておりますので、応用であったり、工夫の点ではちょっと授業を進める上ではどうかというのが研究員からの意見です。以上です。

澤栄美 委員

技術の中で情報に関することを学ぶのはすごく大事なと思うんですけど、特に情報モラルというところ、子供たちにも直接に実生活の中で関係するところだと思うんですけど、そこら辺に関しては学校からの評価のところでは出てきませんでしたが、3社の扱いとしてどうだったかということと、どのくらい時間をかけてやられているのかということですね。あと、道徳なんかでも、情報モラルについて出てくると思うし、ほかの教科との関連とかもあると思うんですけど、どんなふうに指導して、内容的には3社でそれぞれどうだったかということに関して教えていただきたいと思います。

水田貴光 研究員代表

失礼します。

情報に関して、モラルの点はとても重要であると考えております。3社のまず扱いの違いですが、開隆堂が一番詳しくは載っております。特に知的財産の点のところは数頁載っております。

東京書籍のほうも、コンパクトには書いてあり、東京書籍のほうはモラルのほうは頁は割いてありました。あわせて、東京書籍のほうは、著作権のところはその都度、内容の所々にずっと出てきますので、1か所に固めて載っているのではなく、満遍なく学んでいる途中で出てくるのかなというように思いを研究員ももったところです。

どれぐらいの時間をといますと、そもそも本教科のほうで1年35、2年35、3年17.5しか時間が取れませんので、取れて2時間ぐらいかなというふうな程度です。現場の先生方にお聞きしてみると、1年生のときに材料の内容と情報の内容を入れるところで、1年生の初めで当然情報モラルは大事ですので、そのところで入れたりします。また、学習内容の中で適宜入れていくというのがオーソドックスな内容になるのかなと思っています。

また、学校現場としては、技術でも教科の中で扱いますし、道徳でも当然扱いますし、様々な面で情報モラルは、いろんな視点で子供たちに指導するべきものであるというふうに捉えています。以上です。

澤栄美 委員

ほかの教科でもというのは、私、さっき言ったんですけども、こういった内容こそ、やはり子供たちがお互いに協働

小屋松徹彦 委員

的に考えて、そして思考を深めていくというようなことの一つのカリキュラムマネジメントじゃないんですけれども、そういったこととして各学校で取り上げていただけたらいいかな。教科書からちょっと離れるような話になるんですけれども、そんなことを思いました。以上です。

プログラミングのところがちょっと気になって私もずっと見ていたんですけど、小学校でもプログラミングをたしか学習して、それから中学校に上がってくと思うんです。そのところのつながりといいますか、そういったものは教科書各社でどうなっているのかというのが一つ。

それと、私もやっぱり具体的な事例を出した開隆堂のプログラミングのところが一番興味をそそられたなと思って見ていましたけど、見方がちょっと違うのかなと思いました。方法だけでも結構ですけど、プログラミングの小学校からのつながりみたいなところを各社、意識して作られているか教えてください。

水田貴光 研究員代表

失礼します。

小学校でのプログラミングは体験するというふうに捉えております。中学校の技術・家庭科では、問題解決的に考えて、プログラムを使って解決、改善につなげるような学習になります。スクラッチが多く載っておりますので、3社比較といいますか、同じように載っているように思いました。

また、プログラミングもいろいろありますので、そういうような例も教科書の最後のほうに載っているというふうなところもありますし、見やすい、見にくいというのは先ほどお話があったとおりですけど、そこまで違いはないというふうに捉えているところです。以上です。

村田慎 委員

知的財産を守るという部分のところ、この頁を比較させていただいて、私は全部3社拝見して、開隆堂が一番配慮して見やすく書かれてあるなというふうに思いました。

ただ、寄せられた教科書に関しての意見のところ、一般とか先生方、大人ですね、感想や意見というのをたくさん書いて寄せてらっしゃるんですけど、対して子供たちの感想がゼロなんですよね。技術自体にもっと興味を持ってもらっ

水田貴光 研究員代表

て、教科書も自発的に手に取る、授業を楽しみながら受けようと子供たちに思ってもらうためには授業で何が必要なのかというのを、どういうところを大切にされているのかというお考えを聞かせていただければと思います。

失礼します。

授業で何を大切にというふうなところで今お話がありましたけど、学習指導要領に載っている資質、能力を高める、育成するというのが一番しっかり重きを置いているところで、教科書はそのために活用させていただくという。身の回りの課題を子供たちがしっかり捉えて改善するために、テクノロジーを使ってどうやっていけばいいかというような話をし、そのための説明であったり、道しるべに教科書がなっているというふうに捉えております。

時間数も、1年35、2年35という週2時間しかありませんので、あまりにも教科書を読み込んでとか、これに沿ってというのはどうしても時間が足りない面もありますので、ポイントや思考ツールもよく載っておりましたので、東京書籍なんかはですね。そういうのを活用して、先ほどモラルのところもありましたけど、私だったら協働的に思考ツールを使って考えさせたり、教科書で確認したりというふうな形で資質、能力の育成に取り組んでいくかなと思います。本当は教科書に重点を置いてというか、これを基にとはならない面もあります。

これもちょっと違いますけど、話が長くなって。ものづくりをゴールにする教科でもありませんので、最後まで自分の実生活に関して、今後よりよい生活にというふうなところで最後持っていくというふうな途中でまた使うというか、そんなことを考えております。以上です。

遠藤洋路 教育長

ほかにいかがですか。

じゃ、私から1つ。西山委員からもあったんですけども、東書の最初の穴が開いているやつ。これは電球の側にあって、反対側は技術の眼鏡という、これはちょっと何を見るのか分からないんですけども、どういう説明でしたっけ。

三浦寿史 研究員

失礼します。

	この穴が開いているところの技術の眼鏡というところは、その穴に例えば身近なものでいきますと、子供がよく使っているシャープペンとか真ん中に置きます。一番目に見えるのは使いやすさとかが出てくるので、そういう使いやすさが重視されているとなるんですけど、じゃ、ほかに気付くことはないかなとなったときに、どんな材質になっているのかなとか、みんな同じ材質になっているのかなとなったときに、何で材質が違うんだろうとなって、使いやすさのほかに値段とかの話になっていきます。あと、使いやすさ、値段、安全性とか環境のことを考えてあるかとかの話も出てきたりします。 見えたものが見えたまま特徴を子供は言うという最初の出会いはなんですが、意外と気付かないところによく集中してみると、子供さん同士で話し合った結果、こんなものが書いてあるよといって、そういうふうな視点で作ってあったりもするんだねと気付く場面が、この眼鏡で見ましようという学習の場面になります。
遠藤洋路 教育長	ごめんなさい、ただ、穴が開いているだけですよね。何かごめんなさい、どうやって使うか、今聞いても分からないんですけど。何かが見えるんですか、これで見たら。
三浦寿史 研究員	これで実際、担当の先生がワークシートとかに丸を書いていただいて、そこにシャープペンだったり、物差しだったり、消しゴムだったらみたいな例を出されます。じゃ、この真ん中でシャープペンを見てみようとなったときに、シャープペンで気付くことは何かとなると、握りやすいですか、私のはエコと書いてありますとか言う子供たちが出てくるので、何でエコと書いてあるんだろうねみたいな話になっていくと、子供の目に見えているものだけじゃなくて、見えないものも見えていこうというところも気付けるツールとして、結構有効に現場の先生たちが使われているツールになっていると思います。
遠藤洋路 教育長	周りに書いてある社会とか環境とか安全とか、そういう視点で見たらどうかなという、そこに気付いてもらうという、そういうことなんですか。

三浦寿史 研究員	はい、おっしゃるとおりです。そういうところから見たらどんなことに気付けるかなというアドバイスといいますか、気付くためのツールになっているかと思います。
遠藤洋路 教育長	なるほどね、分かりました。何かただ穴が開いているだけで何だろうと思いましたけれども、この周りに書いてあることがこういうことも考えて見てみようという、そういう意味だということですね。
三浦寿史 研究員	そうですね。気付かない生徒さんもいるんですけど、ちょっとこういう言葉の助言とかがあると、あっと気付く生徒さんがいらっしゃるの、それで意外と見えているんだけど見えないものにも気付いていく体験をしていただくということです。
遠藤洋路 教育長	私は多分気付かない生徒ですね。分かりました。 じゃ、ほかにご発言ありますか。
西山忠男 委員	今の議論ですけれども、これは最適化の窓ということですから、技術を例えば、原発が一番分かりやすいですけど、原発というのを考えたときに経済性はどうか、安全性はどうか、社会からの要求はどうか、環境への負荷はどうかというふうな視点で見たときに原発をつくるべきか、つくらざるべきかというような、そういう判断をすると。簡単に言えばそういう目で技術というのを見てみましょうという話なんですよ。
水田貴光 研究員代表	失礼します。 そのとおりです。今の教科書にもこれは実はありまして、3年間通して、社会、安全、環境、経済という視点でそこをポイントとして、いろいろ見方、考え方を働かせるという。初めになっていますけれども、材料とかもですし、今委員のほうがおっしゃった原発、エネルギー変換のところも同じですし、成立したところをそういうふうに見ていくというふうな学びをしています。

令和6年（2024年）第5回臨時教育委員会会議【7月17日（水）】

西山忠男 委員	そういう意味で、ここに原発が置いてあったら分かりやすいんですけど、LEDそこまで考えられるかというと考えられないでしょうというのが一番最初に私が申し上げたかったことなんですよ。
遠藤洋路 教育長	じゃ、ほかに。よろしいでしょうか。 では、ほかになれば技術・家庭科の技術分野は以上といたします。
伊藤友子 選定委員長	まず、「国語」の教科書の調査結果について、研究員記録員が説明いたします。 《馬原大介 研究記録員 説明》
伊藤友子 選定委員長	次に教科書展示会の意見集約の結果報告を事務局が説明いたします。 《榎木敏之 副所長 説明》
伊藤友子 選定委員長	ただいまの報告について、事前に選定委員会にて調査報告を審議した結果、内容は妥当であると判断しました。
西山忠男 委員	最初に説明がありました根拠を明確にしていたというテーマについては、三省堂が用いている三角ロジックが一番分かりやすいと思いました。 教育出版は、説明にもありましたように、1年生のときに使っている三角形の意味合いと2年生で使っている意味合いが違うんですよ。これはちょっと生徒が混乱するので避けたほうがいいなと思いました。 光村図書は、複数の根拠と複数の理由から意見をまとめるということなんですけど、そうなんですけど、あんな書いても仕方がないかなという、関連性は見えないですよ。そういう意味では、三省堂が一番いいかなと思いました。 それ以外の点ですけど、まず、国語ですから読んで心を打たれるという経験をするのは大事だと思うので、そういう教材があるかという目で見ると、三省堂には向田邦子の「字のない葉書」というすばらしい教材がありました。光村図書の

米倉斉加年さんの「おとなになれなかった弟たち」、これもすばらしい文章だと思いました。東京書籍は資料編に「そこに僕はいた」という辻仁成さんの文章があるんですけど、これはいいですけど、何で資料編という感じがしますね。教育出版には、特に心を打たれる教材がなかったのが残念に思いました。

それから、三省堂のもう一ついいなと思ったのは「竹取物語」ですね。1年生の教科書の5章、古典に学ぶというところの「竹取物語」なんですけど、これが現代的なイラストを使って、こういうふうに示されている。ほかの教科書は昔の絵巻物の図がほとんど。これですね。こういうのを使っているのがほとんどで、これは今の若者にとっては現代的なイラストが非常に印象的で、取っつきにくい古典に対するバリアが下がるんじゃないかなという点も三省堂は評価したいと思いました。

それから、情報に関しては、光村図書の2章、情報を整理して説明しようというところと、それからもう一つ、教育出版の4章に情報を得るというところですね。それから、三省堂の6章、情報を関連付ける。こういう情報に関する記事が出てきたのはなかなか特徴的で、それぞれいいかなと思った次第です。

最後に、東京書籍を評価したい点が1点ございます。それは8章の未来の扉ですね。1年生です。多様性と共生社会という8章にそういうのがありまして、220頁。ここには

「『ろう者』として生きる」という記事が入っていたり、共生社会を目指した条例とか、多様性の尊重を啓発するポスターといったような他社にはない貴重な資料が入っているので、東京書籍を評価したいと思います。

そういうわけで、私の中では三省堂か東京書籍かでちょっと迷っている状況でございます。

澤栄美 委員

根拠を明確にしてというところで考えたときに、私も結構、物を書くことが多いので、そのときに思考をまとめることはすごく大事な事かなというふうに思ったときに、東京書籍でいうと、1年生の教科書だと280頁に思考のヒントという、物を考えるとき、こんな風にして考えた、ウェビングとかグルーピングとかそういうのが載っていて、ほかの教

	科書会社はどうかと思ったときに、三省堂も後ろのほうに、1年生の304頁にまたちょっと思考の仕方として違うメモとか、そういう考え方であるんですけど、それよりも前に、先ほどもちょっとお話に出ていたと思いますけど、前のほうの19頁のところ、折り込みですね。思考ツールがこれだけ紹介してあって、これはロイロノートの中にも入っているので、子供たちが自分はこの風に考えたとかいうのを交流するのにも、ICTを使うということが熊本市の観点にも入っていますので、これが非常にいいかなというふうに思いました。 教育出版では、そのようなところをちょっと見つけ出すことはできなかったんですけど、光村図書には思考ツールとは違うけど、思考の地図ということで考え方が、流れはこんなふうにして考えるといいよというのがあって、そういったものを活用して、じゃ、これから熊本市はICTも使いながら学習していくということを考えたときに、やはり三省堂のこういったものを取り上げておくのは非常にいいのかなというふうに感想を持ちました。以上です。
村田 慎 委員	先ほど「竹取物語」の挿絵のお話がありましたけど、私はその始まりの部分で、三省堂が「竹取物語」に入る前に月にまつわる頁があって、昔から人が特別な思い入れを月に持っていたという、昔の人も同じ月を見ていたという、何か全く関係ない世界じゃなくて、本当に昔からの物語として入りやすいというか、身近により感じてもらえるほうが、古典は特に最初から苦手意識を持っている子が多いと思うので、入りやすいんじゃないかなというふうに感じたところでした。 その文章の始まりという同じ観点でいくと、これは古典じゃないですけど、教育出版の「少年の日の思い出」の部分を見たときに、先に構成とか視点の起き方が最初の頁に書いてあって、そこに本文が一部先に書いてあるのがちょっと気になって、ネタバレじゃないですけど、先に分かっちゃうよりもお話の後のほうがいいんじゃないかなというふうに個人的には思ったところでした。
小屋松徹彦 委員	まず、それぞれ1時間でこれだけの内容をこなせるのかという観点から、ボリュームが非常に大きいなと思って見てい

たんですけど、例えば光村でいくと学びへの扉、東書は手引、三省堂は学びのみちしるべ、教出は学びナビということになっていますけど、それぞれを見ていくとこれだけのことを1時間で消化できるのかという、ボリュームがあり過ぎるんじゃないかなと思っていて。これでは、今熊本で目指しているものを主体的で対話的で深い学びを実現するというにはちょっとボリュームがあり過ぎるんじゃないかなというふうに私は思っていて、これは前回もそうでしたけど、今回も結局、35時間の時間の中でそれぞれ1つ削る、単元を消化していかざるを得ないようなボリュームだと思うんですけど、実際問題、これ今の現場で多過ぎるというふうなことはないんでしょうか。ちゃんとこなせているんでしょうかというのが1点。

それから、もう一つ、「少年の日の思い出」ですよ、これをちょっと読ませていただきました。教育出版だけが学びナビという形で前にここで学ぶことを解説して、そしてその後本文に入っていくんですね。私、最初に本文を読みまして、ちょっと何か最初にいったときのよく分からないなといったときに、教出の学びナビでしたか、これを見て、これを見てから読んだほうが絶対これは分かりやすいなと自分では思ったんですけど、3社は全部それを、前に持ってくることはなかった。そこへ、何かその差といいますか、現場でどういうふうな考えなんですか。

濱田浩美 研究員代表

質問ありがとうございます。

まず、ボリュームとしてどうだろうかというところですけど、1、2、3、4、5の段階の中でどこに力点を置くかで、全体の学習時間に関しては調整をしていると思います。例えばつかむだけで1時間はかからなかったりするし、一度に進められるところもあるし、でも、じっくり時間をかけたところもあるしというところで軽重をつけながら、どこに力点を置くかで限られた中で学習をさせているというふうに思っています。

時には子供たちの実態によって予定していた時間よりも長くなったり、あるいは思ったよりずっと入って、例えばICT等を活用することによって、子供たちの考えをすくうことにとても時間が短縮できたりしているので、さっといけたりす

るところもできているかなと思います。ICTが入っていることによって、子供たちがどれぐらいできているかも把握しやすくなっているので、そういうところはタブレット等で見られるようになって、子供たちを取りこぼさないようにして進められるようにやっているかなというふうに思います。

それと「少年の日の思い出」の教育出版の最初の学びナビについて、学びナビ、小屋松委員が言われたように、ここに書いてある内容がとても的確で、何か私の中でも、ここだけじゃないんですけど、うまく言語化できていないところもきちっと説明してあって、ものすごくポイントを押さえてあって、教師側としてもこの表現だったり、押さえは非常に学べるところがあるなというふうに感じています。

ただ、これはある程度読めるから、この内容がしっくり落ちるといえるか、これを勉強するということが分かるんですけど、子供たちにとって、例えば入れ子構造って、入れ子って何というところから来るところなり、新しい言葉が入るとか、こういうことを学ばなきゃいけないですよということが書かれていることが子供たちの学びのそれこそ主体性というところに、どっち側に働くんだろうねという話を研究員の中でもしまして、この説明はとても価値があることはみんな同じ意見だったんですけど、これを子供たちが読んで学習するということにはちょっと実態に合う子もいれば、合わない子もいて、どっちを優先するべきかなと思ったときに、最初じゃないほうがいいんじゃないかなというような意見のほうが強かったように思います。

以上です。よろしいでしょうか。

小屋松徹彦 委員

ありがとうございました。

それぞれの単元で先生たちが強弱をつけながら、ここはこっち、これはこっちということでされているということが分かりました。

ただ、できれば現場として努力はされていますけど、教科書を作る段階で、そこら辺は35時間に合わせて35じゃなくて、では、35時間で30に、そういったような編成時はできないのかなというふうに思っています。そこは出版社の方々に検討いただくことかと思いますが、そこらも含めて、今後の教科書づくり、考えてもらいたいなと思いました。

西山忠男 委員

私も、教育出版の「少年の日の思い出」の学びナビはとても価値のある教材だと思ひまして、私は小説が好きでよく読むんですけど、小説の読み方というのはよほど読み込めば分かるんですけど、最初のうちはなかなかどう読んでいいか分からないものなんですよ。中学生に、小説ってこんな時間の流れがあるんだよ、こういう書き方もあるんだよというのを教えてやるという意味では、この題材は非常にいいんじゃないかなと思いました。

これを読んだときは教育出版に入れようかと思ったんですが、教育出版の題材の中で、ハンス・ペーター・リヒターの「ベンチ」というものが入っているんですけど、これを読んだときにこれはちょっと。「ベンチ」というのは、ユダヤ人は座ってはいけないベンチにユダヤ人の友だちと一緒にその近くに行つてという話なんですけど、中学生にはユダヤ人がなぜ差別されるのか理解できないだろうと。我々にも理解できないんですけど。その背景の説明がないので、この題材を使つてもあまりぴんとこないだろうなというふうに思ひました、確かに。私は、入れ子構造の説明を評価しながら、教育出版はちょっと今一つと思ひた理由です。

遠藤洋路 教育長

ほかによろしいですか。

じゃ、私からも。最初の熊本の現状を説明していただいたんですけど、一つは根拠を基に学べるということができていないということと、主体性という点で足りないということで、重要な力がついていないというようなことだと思うんですよ。それはやっぱり結構まずいですよね。何か、今その状態というのは、これは今の教科書でいいのかというところがあるんだと思うんですけど、なぜ今そういう状態なのかというところを教科書の話と絡めてどう考えているか、教えていただけますか。

濱田浩美 研究員代表

問いに対しての答えがある程度子供たちが書けていたときに、何かそこでよしとしてしまっているような現状があるのかなというふうに、なぜそう書いたかのところが欠けていても、そこを言ったことでこちらが評価してしまったり、何かそこを突き詰めるところをきちんと評価してこなかったとこ

遠藤洋路 教育長

ろも現場の中にあるのかなと。頑張って発表しているから言えただけでもみたいな、そういうことを許していると、そこが曖昧なままの答えを書いてしまったり、考えを言ってしまったりするのかなというふうに思います。

そこにはなかなか、さっき小屋松委員がおっしゃいましたが、時間的な余裕がなく、問い返しの時間をしっかりできていなかったりというところがあったりするのかなというところも、授業を組み立てていく上での反省かなというふうに思います。きちっと教科書の中では根拠を明確にするように書かれてはいるんですけど、その辺の意識をずっと持って問題に対応するというところが欠けているところがあるのかなというふうに反省をするところです。

根拠を基に考えを述べるのが苦手だとか、主体性がないというのは全体的として受け身だということですよ。やっぱりそれは教科書の問題もあるのかもしれないけど、教え方の問題というのは授業のやり方も大分まだ生徒主体になっていないという部分もやっぱりあるんでしょうね。それをどういうふうに改善していくかということだと思うんですが、そういうことを考えたときに、私の意見は、この中だとまず、根拠を持って述べるという点で、西山委員からもありましたけど、三省堂の教科書が非常にいいなというふうに思います。

1年生の200頁ですか、三角形の図が非常にビジュアルとして分かりやすいし、事実と理由と主張というこの3つで話を組み立てるのが非常にそれが見て分かるし、それが2年生になってもずっと使われているという点もいいなと思います。事実ですよ。A社の教科書はこうなっていますと。理由として、熊本市の子供に足りない力をつけるにはその点は非常にいいと思いますと。主張、だから、A社の教科書が非常にいいと思いますというのが、非常に大人でも十分、この順番で話を組み立てていけば、根拠を基に話ができる。

意見と根拠の違いみたいなことを言っても、意見と事実ですか。事実も人によってやっぱり違う時代ですから。そこは客観的なものと主観的なものがあるという前提ではなくて、あなたの意見はどういうことなんですかというのがいかに説得力ある形で示せるかということが大事だと思うので、そういう点でも三省堂のビジュアル的なものは非常にいいなと思

小屋松徹彦 委員

います。

それから、主体性という意味でも、私は三省堂がいいなと思ったんですよね。それは、その後の218、219頁ですか。1年生ですね。学びの道しるべという、ここでいろいろ順番に書いてあるんですけど、その中で5番です。「あなたはエーミールについてどう思うか、まとめよう。」あなたはどう思いますかという、それが一番大事だと思うんですよ。東京書籍はその点、丁寧に順を追って書いてあるんだけど、それを正面から聞いてないんですよ。どう読み取るかということも大事ですけど、外国の知らない男の子の話じゃなくて、あなたの問題なんですよという、その意識を常に持っているということが大事だと思うんですよね。それは、三省堂はほかのものも、学びの道しるべには自分の考えを述べましようとか、あなたはどう思いますかと、全部一つちゃんと項目として出ているのが多いので、その点は非常にいいと思うんです。ほかの出版社も書いてなくはないけど、ここまで正面から、あなたはどう思いますかと書いていない。

大人でもそうですよね。小説を読みましたと。例えば西山委員が、この前、こういう小説を読んだんですよというときに、そのときに、主人公の心情はどうでしたかと聞くんじゃないで、どうでした、西山委員はどう思われましたかと聞くわけじゃないですか。こういうところがよかった、こういう理由でいまいちだったとか、そういうあなたは思うかというところがないと、何のために本を読んでいるのかということだと思うので、当事者意識というか、主体性を持っているのはという意味で、こういう問い方は必要なのかなと思ったところです。私は三省堂が一番この中でいいなと思いました。

今の教育長のお話を聞きながら、私も久しぶりに思っていたことを思い出したんですけど、光村図書、今の「少年の日の思い出」なんかは学びナビの3つ目に、別の人物の視点から文章を書き替えてみようというのがあって、確かにここにはお母さんが出ていたりしているので、じゃ、お母さんが、一言もしゃべってないんですけど、どういう気持ちだったのか、この物語自体を膨らます意味でこの視点は面白いなと思っていたんですけど、これも先ほど言いましたように、1時

	間の授業の中でここまでいくのは大変だろうなど。でも、ここまでやったら楽しいなというので、これは一つ観点としては面白いなと思って記憶していました。 以上です。
遠藤洋路 教育長	ほかにご発言はありますか。よろしいですか。 では、ほかになれば「国語」は以上といたします。
伊藤友子 選定委員長	まず、「外国語」の教科書の調査結果について、研究員記録員が説明いたします。 《清田旭 研究記録員 説明》
伊藤友子 選定委員長	次に教科書展示会の意見集約の結果報告を事務局が説明いたします。 《榎木敏之 副所長 説明》
伊藤友子 選定委員長	ただいまの報告について、事前に選定委員会にて調査報告を審議した結果、内容は妥当であると判断しました。
遠藤洋路 教育長	それでは、協議に入ります。ご意見・ご質問はありませんか。
西山忠男 委員	最終的な表を拝見しますと、東書と光村が◎の数と同じですよね。この2社の評価が高いんだと思うんですけど、私はどちらかという東書のほうがいいかなと思ったんです。その理由が大きく言うと2つあるんですけど、1つは目次ですね。1年生の教科書で見比べてみたいと思いますけど、東書の4頁、5頁が目次になっていますけど、これは題材があって、活動の目標が次に絡んであって、文法事項、代表的な例文があって、その中、グラマーのコメンテーション、文法のまとめはここに入っていますよというのがずっと書いてございますね。そして、一番右にはさらなるトピックのリストが書いてあって、非常に分かりやすいという印象です。 光村のほうは、1年生の2～3頁ですけど、一見したところ、非常にシンプルですよね。シンプルで基本文が書いてあ

るのは分かりやすいと思いますけど、右のほうに帯教材でライフ、at grammar、Let's Readを書いてあるけど、何となく付け足したいな感じがしてインパクトがない目次になっていますよね。私、目次は、東書が全ての教科書で一番優れているというふうに感じました。

2点目は巻末資料なんですけど、これも同じ1年生で見ますと、東書の巻末資料は非常に充実しているんですよね。129頁から出てきますけど、ワードリスト、ワードルームで、ローマ字の書き方、本文の後ろに手紙やカードの書き方、キーセンテンス、キーエクスプレッションの一覧となっていて、最後に語順カードという、こういうカードまでついていて、これを切り取って遊びなさいという感じになって、こういうのはスローラーナーにはいいんじゃないかなと思いますけど、光村にはそういう工夫がいま一つないような気がして、巻末に英語の学び方ガイドというのはあるけど、ちょっと東書に比べると見劣りがするかなというふうに感じました。

ご説明では、東書は学習負担が大きいというご説明がありまして、そうかもしれないとは思ったんですけど、光村について評価された英文を書くところですね。手紙の返事を書く。190頁だったと思いますけど、私はそっちのほうに難しいんじゃないかなと思ったんですよ。英語を書くというのはものすごく大変で、私も英語で論文を書いていますけど、いつまでたっても英文校閲に出すと真っ赤になって返ってくるという、そういう状況ですから、中学生で書くというのはものすごく大変なことじゃないかな。という意味では、学習負担はやっぱ大きいんじゃないかなというふうに思うんですね。

そういう意味で、私は公平に見て、東京書籍がいいんじゃないかなと感じるんですが、問題は、最初の話にあった英語が分かるという生徒が本市では全国に比べてマイナス4%ぐらい。ここをどう理解したらいいのかな。英語が分かりにくいという生徒に対してどんな教科書がいいかなという観点で見たときに、私が一番いいと思った東書は本当にいいのかなというのは、自分がちょっと分からないんですよね。今まで光村を使ってきたんだから、光村から変えてみるというのは一つの手だと思うんですけど、責任が教科書にあるんじゃない

武藤敦子 研究員代表

くて、先生方の教え方にあるのかもしれないし、教科書を変えても変わらないのかもしれないんですけど。

ここはそこも踏まえて、本市の生徒に合った教科書を選びたいんですけど、その点のご意見はいかがですか。

1年生の教科書だけで比べてみるとあまり差がないように感じました。というのも、小学校の5・6年生で学んできた英語の学び方、たっぷり聞いて、たっぷり話してという感じでちょっと書いてみたいというような気持ちにさせるといいう小学校5・6年生の学びが、中学校1年生の教科書にはどの出版社も反映されていたように感じます。

小学校の教科書であれば、子供たちの負担を少なくするために吹き出しでせりふが入っているというふうな形なんですけど、中学校1年生の教科書を見たときに、どこの出版社も大体ユニットスリー、LESSONスリーぐらいまではそのような形で負担を少なくし、慣れてきたところで少しずつ文章が増えていくというふうな形があります。

ただ、そこが今度は2年生、3年生と学年が上がっていったときの教科書を見たときに、先ほど説明があったように、ぱっと開いた瞬間、わーっと。何ていったらいいんですか、もうこれは読めないというふうになってしまう懸念があるのではないかなというふうに感じたのは東京書籍でした。もちろん英語が得意な子たちばかりであるならば至れり尽くせり、何でも載っている東京書籍というのはすごいよねと。それは調査員の中からも話が出たんですけど、逆に私たち、公立の中学校で教えている、いろんな立場の子供たちを見ていますので、英語が苦手な子たちのことを教科書を見ながらちらちらしたときに、内容は難しいけど、ストーリー性から前のユニットでこの登場人物の誰々君はこんなこと言っていたよね、次はどうなるかなというふうな興味・関心を持たせるという意味では、光村の教科書はとてもよくできている。スローラーナーも、英語が苦手でも、ストーリーの中に入り込んで英語をしゃべってみたいというふうな気持ちにさせられるのではないかな。

そして、例えばユニットの中での車椅子の登場人物がいるんですけど、そのストーリーの中に、今度はシンガポールに

	旅行に行くというふうなストーリーがあり、その中で車椅子を使う人たちの標識が出てきて、そして、その次にはシンガポールの空港でのリスニングというふうな形で、内容的なつながりもとても面白いなというふうな調査員からの印象です。
西山忠男 委員	光村がいいのはよく分かったんですが、私がお尋ねしたいのは、今まで光村を使ってきたのに、やはり英語が分からないという生徒が全国よりも4%多いわけですね。そこをどう評価するということなんです。このまま光村を使い続けていいんだろうかという。なぜ、そんなに光村の教科書を使っているのに、本市では成績がよくないのかということなんです。その点はいかがですか。
武藤敦子 研究員代表	使いこなせていない可能性があるかもしれません。ということと、教える側にも、やはりこれから教科書をどう活用して授業していくかという点については、教育センターと一緒に研究していかなければならない点ではないかと思います。
西山忠男 委員	分かりました。そうなるとどっちを選んだらいいのかなと、私はすごく悩んでしまいますね。もう少し考えさせてください。
小屋松徹彦 委員	今の研究員のほうからの説明で分かりましたけど、小学校のときには、先ほどおっしゃったように、リスニングとスピーキング中心にやってきて、中学に入って、またライティングとか、文法とか中学でやっていくわけですけど、小学校から中学校に上がってきますと英語が嫌だなということをなくすために、中1の壁といいますか、これをなくすために各社がいろんな努力をされているというのは私も見てよく分かったんですけど、その中で特に私の中では、光村図書の入りの部分が丁寧に細かく書いてあって、ユニットワンに行くまでも十分時間をかけてあるというのが印象としてありましたので、導入の部分では非常に私は光村を買っております。 ただ、先ほど西山委員もおっしゃいましたが、教科書が同じでいいのかというテーマがありました。研究員からも、

	もう一つしっかり使えていないのかもしれないという意見でしたので、私もどっちかという、教科書を変えることも一つのきっかけになるかもしれないし、同じ教科書で再度もう一回工夫するという、そういったことでの何か、そういったこともあるだろうからということで、現場のほうにはどちら側にしても期待はしたいなと思っているんですけど。 もう一つは、今小学校はたしか光村を使っていますよね。そういう課題からいくと、中1の壁をすんなり乗り越えていくためには、小学校と中学校となるべくスムーズにつなげるという意味では同じ教科書でもいいのかなというふうに私は思ったりしています。 もう一点、教科書のサイズの問題が出ていましたけど、A4とB5と二通りありますが、A4は入らないんですか。そこはちょっと質問です。
武藤敦子 研究員代表	学校によっては、生徒数が多い場合に、教室の後ろの棚が3人で1つの棚とかいうふうな使い方をしているところによっては、大きい教科書は入りづらいというふうな問題はあると思います。全部の学校が同じ棚のサイズではないので、ここでは何とも言えないんですけど、確かにA4サイズのものはちょっと大きく感じるかなという気はします。
小屋松徹彦 委員	学校の教科書を置いて帰るときのスペースの話なんですね。分かりました。それで、最近は二次元コードがどんどん増えていますので、どちらかという家を持って帰って復習したりとか、自分で聞いてみたいという、そういうのが非常に大事になってくるし、そういう教科書の使い方というのが増えていくんじゃないのかということがありますので、そういうことからすると、英語の本なんか特に持って帰って利用するのがいいかなと思っていますが、いかがでしょうか。
武藤敦子 研究員代表	持ち帰りに便利なのはやや小っちゃいほうではないかと思います。持って帰って勉強することは、英語はほぼ毎日ですので、置いて帰るということはないと思います。
小屋松徹彦 委員	ということは、あまりサイズのどうのこうのとすることは、意見としてはありましたけど、あまり考えなくてもいいのかなと思いました。

武藤敦子 研究員代表

おそらく机の上に置いたときに、教科書だけではなく、ノートもタブレットも筆箱もといろんなものを置いたときに、A4サイズはちょっと大きく感じるのではないかな。後ろの棚とか、かばんの中というよりも机の上でのスペースの問題かなというふうに思います。

村田 慎 委員

キャラクターに親近感を持つことができるというのはとても大切だと思っていて、確かにちょっと前回よりも点数が低いというところでは、教科書を変えるというような選択肢もあるのかなというのも思ったりもしたんですけど、ただ、光村図書のキャラクターがずっと1年生から3年生にかけて一緒に成長していった、途中でけんかをするシーンがあって、日本語もちろんですけど、英語も書いてあるのを言い合って練習しましょうという完全に棒読みになって掛け合いしてしまいますけど、感情が高ぶったりしたときにどういう掛け合いになるのかとか、そういうのをリアルにけんかしているシーンで実際に二次元コードのやり取りを聞けるし、そういうのを聞いて言い回しというのを勉強できるのはすごくいいなというふうに思いました。感想です。

澤栄美 委員

今、村田委員が言われたように、キャラクターがずっと続いていくというのは子供たちの入り込みとして入りやすいのかなと。小学校から成長してきたというのでいうといいんだろうなと思うんですけど、そうするとずっとそれになるような、そこを切れなくなるようなところもあるかなと半面思ったりもしました。

私が一番思うのは、大人になって、西山委員のように論文を書く機会というのはほとんどないんですけど、しゃべるということを考えたときに、友達の英語教師から英会話を勉強しているときに、やっぱりどうしても文法はすごく大事なんだよねというのを思っていて、普通しゃべる分の英語は中学校英語があれば十分話せるというのを考えたときに、文法のところが例えば光村でいったら、アクティブグラマーとかいうものは、東書でいったらグラマーフォーコミュニケーション。いろいろ各社、そういう文法の頁を設けてあって、そこはきっちりまとめていくということがすごく大事なんだろう

武藤敦子 研究員代表

など思ったときに、不定詞のところを見ていたんですけど、各社特徴があって、入りやすいのは三省堂とかがキャラクターでそれぞれシーンがあって、キュープラス動詞というところがやりやすいのかなと思ったんですが、その辺の文法の教え方の分でここがいいとか、みんな同じぐらいだなとか、そういう話題にはならなかったかをお聞かせいただきたいなと。

文法に関しては、例えば、今さっき不定詞の話が出てきましたが、昔であれば不定詞、名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法、現在完了というふうな用語のところばかりに特化して、結局、それがどういう場面でその表現が使えるのかというのがやはり不足していたなというふうに思うんですが、今回、どこの教科書を見ても、そこが文法ありきという形ではなく、その表現がどのような場面で使えるのかというふうな工夫がとてまなされているというふうに感じています。

先ほど話があった三省堂は説明が詳しい。それから、東京書籍も説明が詳しくあったり、一番文章で詳しく書いてあったのは啓林館だなというふうに思うんですけど、文法のまとめであるところの頁はびっしり日本語で説明が書いてある。光村であれば、まとめのところでもう一回ユニットに戻って、その場面、ストーリーを思い出してみようというふうな設定になっていて、教科書をもう一回ユニットに立ち返ってみて、こういうストーリー展開でこういう場面のときにはこの表現が使えたなというふうなことを振り返るのにとてま、こういうアプローチの仕方もあるんだなというので参考になりました。

遠藤洋路 教育長

澤委員、よろしいですか。ほかにいかがですか。じゃ、私から1つ質問なんですけど、教科書展示会の意見の中で78頁、開隆堂に関しての意見で、他社に比べてスピーチに関する扱いが手厚く、これまで使用している光村と対照的な感じがしたという意見があったんですね。光村というのはそういうスピーチに関する扱いが少ないとか、会話が少なくとか、何かそういうイメージがあるんですか。研究員、お願いします。

武藤敦子 研究員代表	「Sunshine」、開隆堂の教科書に関しては、単元末の活動に結構重きを置いてあって、単元末の活動の手順が非常に詳しく書いてあるというような印象です。 それに対して、光村は単元末のところだけではなく、各ユニットの中で言語活動が常に出てきている。ずっと積み上げていくという、漆塗りのように何度も出てくるというふうな教科書の仕組み、その違いのような気はします。
遠藤洋路 教育長	開隆堂に関してというより、光村と対照的だというのは、何かその辺が手薄だという印象を持っている人が意見を書いたのかなというふうに思ったんですけど、そうでもないんですか。一般的に学校の先生たちが皆さん、光村はちょっと何かスピーチとか、しゃべるのが少ないみたいに皆さん、思っているというわけではないですか。
武藤敦子 研究員代表 遠藤洋路 教育長	それはないと思います。 分かりました。
西山忠男 委員	今の教育長のご指摘は、開隆堂のやつでこういう漫画があって会話しているというのがいっぱい出てくるんですね。これが直接、会話の練習に役立つというふうに思われたんじゃないかなと思うんですね。光村にはこういう工夫はないですよ。これは確かに開隆堂の非常にいい特徴だというふうに私も思います。ですから、もしスローラーナーがこういうのだったら興味が持てるというんだったら、開隆堂を選ぶという選択肢もあるというふうに思います。その辺はどうでしょうか。
武藤敦子 研究員代表	確かに今回の教科書で、開隆堂だけがユニットの一番最初のところに、その単元で出てくる文法事項を漫画形式にして、一番短い会話文というふうな形で出ている方式に変わっているということで、ちょっと画期的だなというのは調査員の中からも出ました。
遠藤洋路 教育長	他にご意見はありませんか。ないようですので、以上で「外国語」について終了いたします。

令和6年（2024年）第5回臨時教育委員会会議【7月17日（水）】

伊藤友子 選定委員長	まず、「道徳科」の教科書の調査結果について、研究員記録員が説明いたします。 《迫田知子 研究記録員 説明》
伊藤友子 選定委員長	次に教科書展示会の意見集約の結果報告を事務局が説明いたします。 《榎木敏之 副所長 説明》
伊藤友子 選定委員長 西山忠男 委員	ただいまの報告について、事前に選定委員会にて調査報告を審議した結果、内容は妥当であると判断しました。 東京書籍が一番評価が高いようですが、私も東京書籍が一番いいと思いました。その最大の理由は、1年生の教科書の25頁かな。ちょっと場所は分からなくなっちゃいましたが、外国人差別の話があったのと、それから、3年生の教科書の59頁にタンポポ作業所という題材があって、ここは働く意味とはという内容になっていて、作業所で働く人の感想文みたいなものなんですけど、実際には知的障害のある人と共に生きるというテーマとして、非常にすばらしい内容だと思いました。また身体に障害のある人の話はいっぱい出てきたんですけど、知的な障害のある人の話は出てこないの、そういう意味で東京書籍のこの教科書は非常にいいなと思った次第です。 教育出版は、2年生の144頁にダウン症のお子さんの話が出てきて、これもなかなかよかったですね。それから、教育出版では、熊本地震の中で見つけたものという本市に関係のあるテーマが出てきて、それもよかったと思いました。 光村は全体的に非常によくできた教科書で、共に生きるためにはという1年生のユニットテーマの中で身体障害者の話、ハンセン病差別の話、それから他国の人たちを理解するためには、人権とは、そういうテーマが扱われているというのが非常によかったと思います。もう一つ面白いなと思ったのは、2年生の教科書の82頁。なんだろう、なんだろうという漫画があって、これがとてもユニークで面白い。「許

澤 栄美 委員
西山忠男 委員

す」ってなんだろうということで、答えのない行為なんですけどね。それがいろんなことを考えさせる。例えば寝てるおじいちゃんのそばでおばあちゃんが、もういいわよと言う。このおじいちゃんはやい頃浮気でもしたのかなという想像も膨らんで、非常に考えさせられるいい教材だと思いました。

日文ですね。日文は、私が評価したのは、1年生の76、77頁の性の多様性の部分でした。お互い認め合うためにというところで性の多様性について考えよう。体の性、心の性、好きになる性、表現する性、いろんな性があるんだよということ。こういうテーマはあまり他で見なかったような気がしたので、これは評価できると思いました。

何年生ですか。

1年生。

それから、学研はご説明があったように、いじめの教材が分かりにくいんですね。これがどこにいじめの教材が扱われているんだろうと。そこがちょっとやっぱ私も、ちょっと学研さんは考えてもらいたいなと思いました。

あかつきは、1年生で共に生きる社会というところで、ある日のバッテリーボックスというテーマで小児まひの少年を取り上げているようなところがよかったなと思いました。

最後は日本教科書ですが、日本教科書はユニットテーマの明示が非常に、一番よかったかなと思うんですね。目次のところですけど、ちゃんとユニットテーマに沿って、個々の教材がきれいに並んでいる。ほかの教科書は入り組んでいるんですよね。何でこんな構成にするんだろうと思うぐらい、ユニットテーマと個々のテーマがばらばらに配置されていて、次の頁、またユニットテーマごとに並び変えた項目が載っていたりして、どうしてこんな複雑な構成にするんだろうと思うところがありました。そういう意味で、日本教科書は、◎は少ないけど、構成としては私は評価できるなと思ったところでした。以上です。

澤栄美 委員

道徳が教科化された背景にいじめが影響しているということで、2つ目の視点のときにいじめのところを中心にお話しされたんですけど、私は全体的には東書とそれから光村がいいかなと思って見たときに、光村のいじめの教材が「いじ

	り」というところに入っているところが、これは完全にいじめだよねという教材じゃなくてぼんやりとしている、実際にはいじめかもしれないというところをしっかりと考える教材であるというところがいいのかなと思いました。一方で、日本文教出版の2年生の75頁に、いじめの図って、かなり小学校の教科書でも何か所か使ってたんですけど、これは私も学活とかで使ったりしたこともあって、推奨はしていたんですけど、何かでこの図はもうちょっと違うんじゃないか、というふうに読んだ気がしました。ご存じないですかね。確かにそういう加害者と被害者だけの問題じゃなくて、それを見ている観衆や傍観者もいじめ側になるんだというものでやるんですけど。これは使わなくなったのかな、とちょっと思っていたので、そこはちょっとお聞きしたいなと思っていたのと、「いじり」というところで扱っている光村のところがいいかなというふうに思ったので、その点についてご意見を。
迫田知子 研究記録員	小学校のときにもこの図をお示しして、とても充実しているというお話をさせていただいたと思います。今、澤委員からお話があった、それ以外の形で図化してあるか、という点については、私自身はこの形が少し違うものを幾つかパターンで見たことはありますが、捉えとしてまた違う捉えがあるというところは、今のところ、私はまだ知り得てないのでちょっと確認しておきたいと思います。
小屋松徹彦 委員	考え、議論する道徳という観点から、そこで自分を見つめて、何か気づいていく、そういったところが道徳の大きな役割だなと思うんですけど、そういうことで通常の道徳の時間でお互いに議論するというか、そういう時間の確保はできているのかなという点と、例えば今のここからの教材の中で聞きますと、観点2の②、対話的な学びが3社だけ○になっていますけど、そういった対話を十分できるような時間を確保するような教材というか、そういったものがこの3社に見られるのであればどういうところがあるのかというのを教えてください。

田代めぐみ 研究員代表	確かに教材文が長過ぎると、議論する時間は短くなります。ですので、本校でも、また研究員の中でも、教材はすっきり短いほうが議論する時間はあるよねという意見は多々出ております。 それから、もし、それでもやはり深い学びにつながるようなすてきな教材もたくさんありますので、それを使う場合には教材の提示の仕方に工夫をされとか、あと、足し算と引き算といいますか、長い教材のときには何かを引くという形で時間の確保をしたりもしています。
小屋松徹彦 委員	最初に道徳というのは今言ったように、考え議論して、そして自分で気づきを得ていくというところが大事かと思うんですけど、その中で例えば道徳ノートを使うとか、あるいは二次元コードを入れていくとそこにシートがあるかと思うんですけど、そういったところに記載していくという。これだっって1時間の授業の中でやろうとすると、今言った議論をする部分は短くなったりするんですけど、今、道徳ノートの使い勝手というか、はどんなものなんでしょうか。あったほうがいい、なくてもいいんじゃないかと。私は別に一々書いていく必要はないんじゃないかなと思っているんですけど、いかがでしょう。
田代めぐみ 研究員代表	実際に今、中学校で日本文教出版さんを使っているんですけど、私の知る限りでは、ノートを使う先生もいれば、使わない先生もいます。どちらかというに使わない先生のほうが多いと、私のほうは認識しております。今おっしゃったように、全部の問いについて書く必要はないと考えておりますので、例えば教科書にメモをしたりとか、また最後の振り返りのときに感想の時間を取って書くとかというところでは書く時間は必要かと思いますが、ノートがないと授業ができないということではないというふうに考えています。
村田 慎 委員	まず、日本文教出版社さんの道徳ノートについてお話が出たんですけど、なくしやすそうだなというのをちょっと心配しています。うちはなくしそうだなと思いながら、別冊があるそうですね、使ったり、使わなかったりというのがあったときに、なおのこといつの間にか、どこいったっけというふう

にならないかと。ちょっと、自分の家でも考えたときにちょっと心配な気がします。

内容とちょっと関係ない、一番最初の、初めの教科書を開いたところで思ったことがあったんですけど、光村図書の一番最初に文章が出てあるんですよ。別の教科書でも、有名なサン＝テグジュペリの言葉があったりとかするんですけど、光村図書の表紙、一番最初めくったところに書いてあるメッセージというのが、2年生のところが特に、何ていうか、言葉にするのは難しいんですけど、この歳ならではの不安とか、もやもやした気持ちとか、いらいらしたりとかという葛藤というのをそれをどうしていこうというわけではなくて、すごく寄り添っているというところがとてもすてきなというふうに思いました。

あと、日本文教出版の中にある、他人の靴を履いてみるというところ。この中ではけんかした場面でその言葉が出てくるんですけど、他人の靴を履いてみるというエンパシーが、相手の立場で考えたときにどう感じるかというのは、思い込みとか偏見とか差別とか、そういう問題に直結してくると思うんですけど、ただ、最近エンパシーを持ち過ぎてしまう子とか、既に持ち過ぎていて、人一番、相手のことを考え過ぎて疲れる子というのが増えているというのを記事で拝見したんですけど、そういう子もいるというふうに考えると、教材として使うときに案外難しいんじゃないかなというふうに感じたところでした。

澤栄美 委員

さっき言うのを忘れていたんですけど、ノートの話が出て、東京書籍にはそれこそつぶやきという欄、書く場所があって、自分が書きたいところに書けばいいという話でもあるんですけど、ここに置いている意味、それぞれの場所に置いている意味というのもあるって、こういうふうにつぶやきと、ここで考えてほしいよねという意味合いもあるのかなというのをちょっと思ったということを付け加えたいのと、それとさっきの評価票ですけど、私は東京書籍か光村がいいと思う中で、その2社が○になっているのが、伝統文化、国際社会、このあたりが○という評価だった根拠を少し教えていただけたらと思います。

迫田知子 研究記録員

伝統文化のところなんですけど、とても充実しているのは学研さんです。学研のところは付録にも伝統文化というところの付録を準備してあります。1つずつ説明させていただきます。教育出版は、外国人の視点から日本文化を考えるという表記がありました。面白い視点だなというところで、そういう教材が多様にあったのが教育出版です。また、いろいろなコラム、教材、付録も含めて、伝統文化をたくさん扱っているのが学研でした。もう一つ、あかつき教育図書もすてきだなと思っているところが、例えば1年生の教材で、日本を探すという切り口で教材を作っているところがあります。研究員のほうからも、この教材の提示の仕方は面白いなど、切り口が面白いなという意見がたくさん出ていて、それだけではなくて、例えば1年のアップルロード、あるいは水俣のことを少し紹介している3年生のゼロウエストという教材も、いろいろな教材を使って、日本について、あるいはいろいろな世界について考えるという視点が面白かったです。とても充実していたと思います。

澤栄美 委員

ほかの教科書がよくなかったというよりも、その3社がそういうものをたくさん作っていたということですね。分かりました。

西山忠男 委員

私、光村図書でいいなと思うのは、編集委員会というところで作っている教材。例えば2年生の教科書でいうと36頁に、嫌われるのを恐れる気持ちというのがあって、自分らしくということはどういうことだろうと。この文章の最後は、嫌われるのを恐れるということは、人間の生き方としてひきょうで臆病なことでしょうかという問いかけで終わっています。あるいは、58頁。同じく編集委員会が、「人って本当は」というタイトルで、人間ってどういう存在なんだろうということで性善説と性悪説という2つの異なる考え方を提示して、どう感じますかという問いかけをしていると。それから、62頁、「礼儀は何のため」、これも編集委員会です。次の64頁に、この教材の最後に、「私は何のためにお客さんに『いらっしゃいませ』と言っていたんでしょうか。そういう決まりだから。改めて考えるとよく分からなくなってしまいました。」というふうに、全部生徒たちに問い

迫田知子 研究記録員

かけているんですね。これが非常にすばらしい。答えがない問いを問いかけている。考えさせる。これは光村の非常にすばらしい特徴だなと思いました。

西山委員が今おっしゃっていただいたところは、光村が、目次を書いてありますように、全てユニット化しているというところに大きな特徴があるのかなと。編集委員会のほうで教材を作るということは、その教材と教材のつながりを意識して、ここにあって意図的に入れているというところの、意図的な教材の配置があるのだなと、今お話を聞きながらちょっと重なったところです。

小屋松徹彦 委員

4つのユニットに分けてありますね。22の鍵とか、1年間で学ぶことであったり。その中でいいなと思ったのが、学研の表現の仕方はいいなと思ったんですけど、6頁、7頁に書いてあるところで、通常であれば自分を見詰め直すと書いてありますけど、自分自身に関することをこういうふうに言い換えてあるし、ほかの人との関わりについては「人と支え合う」、集団や社会との関わりについては「社会の一員として」、そして4つ目の生命や自然、崇高なものとの関わりというのは「命を輝かせて生きる」という、何か非常に具体的にイメージがつかめるような表現でユニットを組んであるというのは表現的にいいなと思って見たところでした。学研さんのですね。以上です。

遠藤洋路 教育長

ほかにありますか。ありませんか。

じゃ、私から。光村はいいなと思ったんですけど、例えばさっきの「いじめといじり」みたいなところ、2年生の43頁か。最後の問いかけみたいなのが、西山委員は非常にいいという、光村の問いかけをおっしゃっていましたが、私は何かちょっと大ざっぱ過ぎるなと。例えば、「いじり」の部分は、45頁最後は、「友情を育むために大切なことは何だろう。」「今まで、そこまでのものとの関係あるのかな。」というように、全体的に最後の問いがちょっと、んー、それなのかなというふうに思ったところが結構あります。一方で、説明のときも触れていましたが、あかつき、これはまた逆に何かすごい細か過ぎて、例えば2年生のいじめのところだ

	と33頁ですか。楽しそうに話すおばあちゃんたちを見ながら、タナベさんを思い出したリナはどのようなことを考えたのかとか、そんな細かいこと聞かれてもという、かなり細かい質問になっていて、その間ぐらいが一番いいんだろうなというふうに思うんですけど。昔は、昔というのはあれですけど、1世代前の道德の教科書は、最後の問いがたくさんついているのもあって、何か5つも6つもついているみたいなのがあったんですけど、今回のものは大体みんな2つぐらいで、ある程度大まかな問いになっていますけど、これは何か実際にやってみて、そのくらいがちょうどいいよねということになって、こうなっているんですか。何かその辺どうなっているのか。前とは大分違うなというふうに思うんですけど、いかがですか。 研究員からお願いします。
田代めぐみ 研究員代表	教科化された経緯も含めて、これまで心情理解に偏った道德の授業が進められてきたということですね。資料から、教材から離れられずに最後まで行っちゃったという、その反省点もあって、このような問いかけになっているのかなというふうに思っております。
遠藤洋路 教育長	分かりました。だからなんでしょうね。先ほど西山委員が言ったように、あなたのことを考えさせるというか、あなたはどうですかみたいな、そういうオープンな問いかけで終わっているという意味では確かに大まかな問いになっているのかもしれませんが、何かある程度は中身に沿った問いのほうが、教材の後についているものとしてはいいのかなと。何を読んでも、「友情って何だろう」とか、「人生って何だろう」みたいな問いばかりで、それはそれで何か工夫がないかなというか、どのぐらい教材とつながっているかと思いました。私からの質問は以上ですかね。 教科書展示会の意見で、東京書籍について、表紙についての意見が出ていたと思うんですけど。「男子生徒と女子生徒の絵はかわいいのですが、ジェンダーの観点からどうなのかと思いました。」これはどうなのでしょう。何か男子生徒、女子生徒ペアで出ているのは確かに東京書籍だけなのかなと

令和6年（2024年）第5回臨時教育委員会会議【7月17日（水）】

田代めぐみ 研究員代表	いう気もしなくはないんですけど、どういう意味でのご意見なんですかね。 研究員からお願いします。 おそらく全部の出版社を見たときに、例えば今の制服のジェンダーフリーのものを考えているところでもありますけど、ズボンを履いた女の子みたいな挿絵とか表紙とか、あとは目の色や肌の色も違うような、そういった多様性を強調した、または車椅子に乗っているお子さんが載っていたりとか、そういったところでのいわゆる性別とか、くっきり区切らないというところで各社工夫しているのかなというところは私も感じておりますけど、確かに東京書籍さんのものは男の子、女の子というのははっきり逆に分かり過ぎるかなというところはあります。
遠藤洋路 教育長	なるほど。もっといろんな人が描いてあったら多様性が表現できるのという、そういう意味ですか。分かりました。 私からは以上です。 ほかにはよろしいですか。では、ほかにご発言がなければ道徳は以上といたします。 以上で本日の協議を終了します。
〔閉会〕	
遠藤洋路 教育長	以上で、本日の会議日程は全て終了いたしました。他に何かご発言はございませんか。 他にないようでしたら、これで、令和6年第5回臨時教育委員会会議を閉会いたします。